

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立峰山小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>社会の中で自立し、多様な人々と協働して、個性や能力を生かしながら創造的に生きることができる力を育てる。</p> <p>1 将来に生きたる高い学力を育てる。</p> <p>2 ものごとの価値、生き方・在り方を深く考える。</p> <p>3 自律的に行動する力を育てる。社会に貢献しようとする態度を育てる。</p>	<p>児童相互の学び合いを大切にしたい。授業づくりが進展し、児童の学習意欲や主体的な学習態度、家庭学習習慣などが一層向上した。</p> <p>児童相互の共感的な人間関係が深まり、学校不適応、問題行動や不登校(傾向)の減少・改善につながった。</p> <p>児童が主体的・対話的に深く学び合う指導を教育課程全体で一層進め、質の高い学力と自立・自律の力を確かなものにする。</p>	<p>児童相互の学び合いが、95%が「相談したり話したりする」と学習がよく分かる」と回答しており、結果として「授業は分かりやすい」と思う児童が95%となった。学力改善の効果が上がった。</p> <p>電子黒板がほぼ毎日活用され、授業改善が進んだ。</p> <p>宿題を毎日する等と回答した児童は95%以上で、家庭学習の量や時間等を自ら調整・計画できる児童が増加した。</p> <p>ボランティア多教、企業経営者等10社・10名以上、高等学校等連携・出前10講座以上など、多教の人材を活用し、学習動機を太らせるキヤリア教育が進展した。</p> <p>△新学習指導要領の理念の一層の浸透を図る。</p> <p>△多くの行事・取組を、児童主体の問題解決型に改善した。結果として、意識調査にトラブルを話し合いで解決すると回答した児童は97%、困っている人のために自分の力を使うとする児童は96%となった。</p> <p>△インクルーシブ環境での育ち合いを重視し、継続的ないじめ防止が0件、特定児童への差別的・排他的言動もなくなき、学校で楽しいことがある児童は97%など、良好な社会的関係構築できた児童が増えた。</p> <p>△年間を通して多様な関係機関との連携を継続し、不応や発達課題を改善できた児童が多教にのぼった。</p> <p>△不登校(傾向)児童・家庭への支援、愛着形成等の心理的課題、発達障害等への支援を一層進める必要がある。</p>	<p>成果と課題(自己評価)</p>		
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>重点目標</p> <p>○学び合いによる学習を通して、学ぼう意欲と学ぼう力を高め、教科指導を通して、将来の自立に生きて働く知識・技能・思考力、自律的に判断し行動する力、他者と協働する力を高める。</p>	<p>具体的方策</p> <p>①児童相互の学び合いの中で学ばせる。話し合い、伝え合い、聴き合い等を通じた教科指導に改善する。</p> <p>②ペアワークなど、協働して学ぶための方法(学び方)を指導する。</p> <p>③電子黒板やタブレット端末等のICT機器を効果的に活用する。</p> <p>④峰山学園共通方針の下、生活習慣の自立と運動させ、主体的に家庭学習に取り組むための系統的指導を行う。</p> <p>⑤学習する動機を太らせるため、校区の環境・社会・人材や地元企業・高校、大学を積極的に活用する。</p>	<p>本年度の成果と課題</p>		
<p>生徒指導</p>	<p>○育ち合う力をはぐくむ指導を通して、将来の自立につながる共感的な人間関係を一層醸成する。</p> <p>○組織的な児童支援を通して、学校不適応やいじめを未然防止する。</p>	<p>①従来の行事・取組を見直し、将来の社会的な自立を目指した目的・内容・方法に改善する。</p> <p>②自ら決定し、話し合い、問題を解決し、成長に気付き合う自主的・自治的・自治的問題解決的な特別活動をつくる。</p> <p>③教育活動全体を通して、多様性を認め合い、インクルーシブ環境で育ち合う指導を行う。</p> <p>④児童支援に係る分掌活動、支援会議、ケース会議等の質・量を高め、計画的・組織的な児童支援を進める。</p> <p>⑤スクールカウンセラーや関係機関、医療、福祉等との情報連携・行動連携を一層進める。</p>	<p>本年度の成果と課題</p>		

健康(体 育)・安全	<p>○楽しく運動する意欲と習慣を育てる。</p> <p>○望ましい自立につながる基本的な生活習慣を確立させる。</p> <p>○児童の命と安全を守る。特に交通事故防止を徹底する。</p>	<p>①取組期間を設けて、朝マラソン、朝マラソン、鉄棒、縄跳びなどの体力づくりに取り組む。</p> <p>②基本的な生活習慣を確立するために、児童が自ら生活を点検・改善する取組を行う。</p> <p>③家庭やPTAと連携し、SNS・ゲーム等による生活の乱れや安全上の問題に対して、児童・保護者の研修・啓発・実践を進める。</p> <p>④PTAや地域の安全ボランティア組織等と連携し、登下校の安全確保と事故防止の取組を行う。</p>	<p>○自分の健康に目を向ける児童が増え、インフルエンザ流行期にも学級閉鎖を行う必要がなかった。</p> <p>○非行防止教室やPTAスマホ・ケータイ安全教室など、安全や生活習慣等に対する取組が昨年度より進んだ。</p> <p>○PTAや安全ボランティア組織による登校等の見守りとパトロールが毎日実施され、交通事故は0件であった。</p> <p>△家庭で関わってもらっていると感じている児童はまだ85%以下に留まっており、家庭と連携した基本的な生活習慣確立等への取組を一層進める必要がある。</p>
特別支援教育	<p>○将来の社会参加に向けた自立を支援するという立場に立ち、すべての児童が学校・学級とつながって育ち合い、その子らしさを伸ばし合えるようにする。</p>	<p>①苦手や特質・特性を修正するのではなく、その子らしさを、その子の得意を伸ばす支援に転換する。</p> <p>②どの児童もわかりやすい一斉指導や、どの児童も参加できる集団活動を基本にして、授業や行事を設計する。</p> <p>③個別指導に終始せず、育ち合いの視点から、友達との困りに気付いて動ける個と集団を育てる指導を進める。</p> <p>④保護者と定期的な懇談の場をもち、児童の将来についての願いを共有し合意形成を図りながら、一人一人に応じた合理的配慮を実現する。</p>	<p>○児童意識調査では、先生は自分の良さを分かってくれている94%、気軽に相談できる先生がいる98%となった。</p> <p>○全ての児童が参加できるように行事を見直し、個別の環境調整を当たり前として取り組んだ結果、運動や集団活動が苦手な児童も全ての行事に参加できた。</p> <p>○困っている人に力を使うとすると児童は96%(再掲)など、様々な場面で他者に気付き自ら判断して動くようになる児童が増えた。</p> <p>○児童の将来を共有した保護者懇談を重ね、特別支援教育・特別支援学級等への理解や入級希望が高まった。</p> <p>△児童に対する気付きを即座に共有し、指導や環境調整につなげる態勢を一層強化する。</p>
研修(資質 向上の取 組)	<p>○授業研究等の実践的な校内研修を充実させ、指導力の向上を図る。</p>	<p>①「つながりの中で学び合う力が豊かに育つ授業づくり」をテーマとした研究を設定して重点的な研修を行う。</p> <p>②授業づくり月間(毎学期1回、年間3回)を設定し、すべての教員がオープン授業等によるスキルアップに取り組む。</p> <p>③他校に対して積極的な授業公開や実践成果の発信を行う。</p>	<p>○教職員意識調査では、職能を積極的に伸ばせる学校であると94%が回答するなど、研修が充実した。</p> <p>○全ての担当が年間複数回の授業を公開し、授業を見合う具体的な研修を行ったことで、授業改善が加速した。</p> <p>○峰山学園での複数学年の授業公開、他校の視察受け入れ、府内研究会への実践報告等、多数の発信ができた。</p> <p>△特別支援教育、児童心理の研修を充実する。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>○新学習指導要領の理念を全ての教育活動に浸透させるために、授業・特別活動・取組合う学習、学び合いによる学習、児童が自ら問題解決に取り組む活動、多様性を認め合う取組を一層充実する。</p> <p>○不登校(傾向)児童・家庭、愛着形成等に関する教職員研修を充実し、具体的支援を一層進める。</p> <p>○児童に対する気付きを即座に共有し、指導や環境調整につなげる態勢を一層強化する。</p>	<p>○「つながりの中で学び合う力が豊かに育つ授業づくり」をテーマとした研究を設定して重点的な研修を行う。</p> <p>②授業づくり月間(毎学期1回、年間3回)を設定し、すべての教員がオープン授業等によるスキルアップに取り組む。</p> <p>③他校に対して積極的な授業公開や実践成果の発信を行う。</p>	<p>○自分の健康に目を向ける児童が増え、インフルエンザ流行期にも学級閉鎖を行う必要がなかった。</p> <p>○非行防止教室やPTAスマホ・ケータイ安全教室など、安全や生活習慣等に対する取組が昨年度より進んだ。</p> <p>○PTAや安全ボランティア組織による登校等の見守りとパトロールが毎日実施され、交通事故は0件であった。</p> <p>△家庭で関わってもらっていると感じている児童はまだ85%以下に留まっており、家庭と連携した基本的な生活習慣確立等への取組を一層進める必要がある。</p>

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立いさなご小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>教育目標 「自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ子の育成」</p> <p>目指す子ども像</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 意欲を持って自ら学ぶ子ども 2 思いやりのある子ども 3 進んで心と体を鍛える子ども 	<p>規範意識の向上、思いやりや心の育成を指導の基礎にして、「深い学び」を目指し指導の在り方について研究を進めた。今後さらに新学習指導要領で目指す学力に研究を深めていく必要がある。そのためにも、言葉の力の育成と指導と評価の一体化を進める。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>目指す子ども像を具体化する重点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自ら考え、判断し、表現する力を向上させる。 2 自ら正しく判断し、行動し、感謝の気持ちを持つ。 3 自ら根気強く、頑張る力を育てる。 4 保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する。 	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <ol style="list-style-type: none"> ○1時間1時間ねらいを明確にした授業づくりを進めることができた。 ○峰山学園の家庭学習の習慣化を図る取組において、自らが開始する時刻、内容、時間を計画して行った。 ○主体的、対話的で深い学びの児童の姿をイメージして研究授業を行うことができた。児童アンケートによると授業が分かると回答した児童の割合が増加した。 	
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進める。 2 家庭学習や個に応じた指導を充実させ、基礎学力の定着と確かな学力の進展を図る。 3 知識・技能を用いて活用する力を育成する授業づくりを進める。 	<p>具体的方策</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 算教を研究の柱とし、規律があり、ねらいが明確で児童がわかる授業を研究授業等によって教員が学び合う。深い学びになる「指導」と「評価」の研究をとおして確かな学力の育成を目指す。 2 発達年齢に応じた家庭学習の指導を進め、個に応じた指導を充実させる。 3 身に付けた知識・技能を用いて考える、言葉で表現する力を育成し、振り返りなどを通して学習意欲を高める指導を行う。 	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <ol style="list-style-type: none"> ○1時間1時間ねらいを明確にした授業づくりを進めることができた。 ○峰山学園の家庭学習の習慣化を図る取組において、自らが開始する時刻、内容、時間を計画して行った。 ○主体的、対話的で深い学びの児童の姿をイメージして研究授業を行うことができた。児童アンケートによると授業が分かると回答した児童の割合が増加した。 	
<p>生徒指導</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 2 規範意識を身に付けさせ、いじめを許さない心を育て、行動でできるようにする。また、発達段階に応じた仲間意識を育成する指導を進める。 3 良さを認め合う活動を積極的に取り入れ、児童の自己肯定感を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育部、教育相談部を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、連携した指導を進める。 2 全教育活動を通して道徳教育・人権教育の推進、規範意識の醸成によりいじめの防止を行う。また、「他への思いやり」についての指導を重視する。 3 教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さを通信や学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的に伝えることで、自己肯定感を高め、明るく積極的な態度を促進させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ○要支援児童について共通理解を図り、組織的に支援をすることができた。 ○指導の基本に規範意識の高揚と他を思いやる心を位置付けて指導を積み上げてきた。 △児童アンケートによるルールを守って生活することに課題が見られた。3学期重点的に指導を行い、集合の仕方など改善が見られた。 △肯定的な評価活動を大切にして教育活動を進めてきた。今後も継続して評価活動を進める。 	
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>				

健康(体育)・安全	<p>1 全般的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない強い体を作る。</p> <p>2 困難なことにねねり強く挑戦していきこうとする態度を育成する。</p>	<p>1 体育部、健康安全部等が中心となり、期間を決め、集中的に朝マラソンや朝縄跳び等の取組を行い、体育の授業と連動することと、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発により、体力(特に持久力)向上と粘り強く頑張ろうとする意欲を高める。</p> <p>2 学級、学校での取組において個々のめざす目標を発達段階に応じて明確にし、特に「自分自身に関すること」についての指導を重視することと、ねばり強く挑戦する態度を高める。</p>	<p>○体育の授業、また、朝マラソンなど、期間を決めて持久走の取組を行うことができた。児童も一生懸命に取り組みることができた。</p> <p>○当番活動、係活動、委員会活動など日常の活動を大切にして指導を行ってきた。発達年齢に応じて、粘り強く取り組む姿勢が見られた。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信による積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 信頼される学校経営を行いPTA、地域の関係機関、子ども園・中学校等との取組により連携を進める。</p>	<p>1 学校だよりや学級通信、HP等で学校の様子や肯定的評価を分かりやすく発信したり、保護者等の意見も紹介したりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 無理のないPTA活動を通して積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。</p> <p>3 学校として目指す授業、学校行事等に対する保護者、地域の方々の意見、思いをくみ取り、改善に役立てる。</p>	<p>○定期的に学校だよりを発行し、また、ホームページも定期的に更新し、情報公開を行った。</p> <p>○授業参観、行事参観を実施して本校の教育を広く紹介する場をもった。</p> <p>△保護者アンケートなどから本校の教育に対して肯定的な意見をいただいている。その内容を今後も学校教育の改善に役立てていく。</p>
研修(資質向上)	<p>1 職員の指導力向上に向けた研修を行い積極的に進める。</p> <p>2 峰山学園が目指す10年間の連続した学びと育成を目指した研修を進める。</p>	<p>1 峰山学園研修会、校内の授業研修会等とおして、職員の指導力向上に向けた研修を行う。</p> <p>2 峰山学園の目指す児童像を共有し、その実現に向けた取組のあり方(Ⅰ期、Ⅱ期における指導の在り方)について研修を進める。</p>	<p>○峰山学園研修会、校内で算数科における「深い学び」の指導のあり方について研究を進めることができた。</p> <p>○小中一貫教育の各期の児童の姿を意識した指導を進めることができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>本年度、規範意識の向上、思いやりの心の育成を指導の基礎にして、「深い学び」を目指し指導の在り方について研究を進めてきた。深い学びの具体的な姿を全教員で確認することには不十分さがあるが、今後さらに新学習指導要領で目指す学力について研究を深めていく。「ことばの力の育成」をすべての教育活動に位置付け教育を進める。また、小中一貫教育の各期の児童の姿をイメージして指導をすすめるようにしていく。</p>		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立しんざん小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>1 一人一人が自己肯定感を持ち、いきいき活動する学校【児童・生徒】</p> <p>2 「峰山学園卒業時の子どもの姿」に全教職員が責任を持つ学校【教職員】</p> <p>3 保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】</p>	<p>○新たな学校作りを機に生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業作りに努め、安心して学べる学校を築いた。</p> <p>○社会的なルールやマナーを意識させ「当たり前のことが当たり前にできる」規範意識の醸成に向けた取組を教職員が一体となって進めることができた。</p> <p>○家庭背景に配慮が必要な児童や発達課題を有する児童への教育相談、対応を組織的に行うことができた。</p> <p>△基礎的な学力の定着には課題が見られる。学力の向上を目指し、取組を進める必要がある。</p>	<p>[Let's GO! 笑顔と希望が輝く学校]</p> <p>1 主体的な学びを大事にする学校</p> <p>2 何事にも一生懸命に取り組み学校</p> <p>3 思いやりの心で繋がりが合う学校</p> <p>を旨として、学園評価・学校評価の結果に基づいて、実践の改善を図り、学校経営を充実させる。</p>	<p>本年度の成果と課題</p> <p>○新たな学級経営を機に生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業作りに努め、安心して学べる学校を築いた。</p> <p>○社会的なルールやマナーを意識させ「当たり前のことが当たり前にできる」規範意識の醸成に向けた取組を教職員が一体となって進めることができた。</p> <p>○家庭背景に配慮が必要な児童や発達課題を有する児童への教育相談、対応を組織的に行うことができた。</p> <p>△基礎的な学力の定着には課題が見られる。学力の向上を目指し、取組を進める必要がある。</p>	<p>本年度の成果と課題(自己評価)</p> <p>○ペア・グループ等、多様な学習形態や活動を組み入れ、他者理解を図りながら学びを深めることができた。</p> <p>○校内研修会では新学習指導要領の趣旨理解、目指したい授業等、本格実施に備えた研修を行うことができた。</p> <p>○校内での漢字検定、学年のまとめ等、合格を目指して最後まで頑張る力が児童についてきた。</p> <p>○どの学年においても落ち着いた状況で学習できた。</p> <p>△家庭背景、発達上の課題等が起因し、基礎学力の定着に課題が残った児童もある。</p> <p>○どの学級においても生徒指導の3機能を生かした学級経営を心がけ、落ち着いた状況が生み出せた。児童間の関係性も良好である。</p> <p>○朝会等で常に「何のための取組か」「どんな力を高めたいのか」を意識できるよう話をした。各学級でも児童に意識化させ、目的意識をもって自分の力を高めようと努力する児童が増えた。</p> <p>△家庭背景等から学校を欠席しがちな児童があり、保護者への働きかけや教育相談等を行うこととで後半改善したケースがある。継続的・組織的な支援が必要である。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題		
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>1 児童実態を的確に把握した組織的な研究を行う。</p> <p>2 新学習指導要領の主旨を理解し、本格実施に向けた準備を組織的に行う。</p> <p>3 豊かな人間関係を構築し、自ら学び続けようとする意欲と態度を醸成する。</p>	<p>1 新学習指導要領の主旨に基づき、主体的な学びを育む授業改善と基礎学力の定着を目指した重点研究を組織的に取り組み、教師の指導力の向上を図る。</p> <p>2 校内研修会やグループ研究を通して教師の指導力向上を目指す。週末の隣接学年部会を活用する。</p> <p>3 数値目標を設定し、指導の工夫・改善を行う。</p> <p>4 言葉の力の育成を土台として「わかる」「できる」授業を目指し児童に自己肯定感を育む。生徒指導の3機能を生かした授業づくりを学園組織と連動し追求する。</p>	<p>○ペア・グループ等、多様な学習形態や活動を組み入れ、他者理解を図りながら学びを深めることができた。</p> <p>○校内研修会では新学習指導要領の趣旨理解、目指したい授業等、本格実施に備えた研修を行うことができた。</p> <p>○校内での漢字検定、学年のまとめ等、合格を目指して最後まで頑張る力が児童についてきた。</p> <p>○どの学年においても落ち着いた状況で学習できた。</p> <p>△家庭背景、発達上の課題等が起因し、基礎学力の定着に課題が残った児童もある。</p>		
<p>生徒指導</p>	<p>1 生徒指導の3機能を生かした授業作り、学級の個性の伸長と社会的資質・能力・態度の育成を図り、豊かな人間関係を築く力を育む。</p> <p>2 いじめ事象、不登校傾向児童、問題事象等の早期発見・未然防止に努める。</p>	<p>1 児童の内面理解や安心して学べる教室環境を築くための職員研修を実施する。(初任者研修の活用、校内研修会の内容の充実)</p> <p>2 「目的行動」を意識させ規範意識や集団生活上必要なマナーや行動について考えさせ、行動できる力を培う。</p> <p>3 道徳教育、人権教育、特別支援教育の視点を大事にした取組を組織的に進める。(毎日人権、児童会の取組、日々の授業)</p> <p>4 いじめをはじめとする気になった事象に関して素早く「報告・連絡・相談」のできる職員の体制を築く。</p>	<p>○どの学級においても生徒指導の3機能を生かした学級経営を心がけ、落ち着いた状況が生み出せた。児童間の関係性も良好である。</p> <p>○朝会等で常に「何のための取組か」「どんな力を高めたいのか」を意識できるよう話をした。各学級でも児童に意識化させ、目的意識をもって自分の力を高めようと努力する児童が増えた。</p> <p>△家庭背景等から学校を欠席しがちな児童があり、保護者への働きかけや教育相談等を行うこととで後半改善したケースがある。継続的・組織的な支援が必要である。</p>		

健康(体 育)・安全	<p>1 楽しく体を動かす習慣を身に付けさせ、体力作りや態度を育成する。</p> <p>2 家庭・地域との連携を図り安心安全な登下校を目指す。</p> <p>3 基礎的な生活習慣の確立を目指す。</p>	<p>1 朝マラソン、朝縄跳び、日々の体育等を通して基礎体力の向上を図る。委員会の取組を活用し「ギネスに挑戦」させ、スポーツに関する興味関心を育む。</p> <p>2 発達段階に応じて薬物乱用教室、非行防止教室、SNSに関わる教室に取り組む。保護者への啓発を行う。</p> <p>3 安全ボラティアと連携し見守り活動を充実させる。</p> <p>4 「早寝・早起き・朝ごはん」を意識した「生き生き頑張り週間」を設定し生活習慣を確立する。</p> <p>5 栄養教諭による「食」に関する講話を給食試食会の際に設定し、家庭の意識化を図る。</p>	<p>○朝マラソンに積極的に取り組み、苦手意識を徐々に克服してきて児童があり、マラソン大会に繋げることができた。冬場の朝縄跳びに関しても全校的な高まりのもとに、高度な技を低学年が克服し跳べている。</p> <p>○薬物乱用防止教室、非行防止教室を計画的に実施できた。SNS使用に関しては学級懇談会でも学校から話題提起を行い保護者の意識喚起を行った。</p> <p>△生活習慣の確立において「早寝、早起き、排便」において課題が残った。迫り切れない家庭の実態もあり、児童の意識の持たせ方にも課題が残った。</p>
特別支援 教育	<p>1 障害への理解、多様性を認め合い、好ましい人間関係を築く。</p> <p>2 発達障害等の特性に応じた個別の支援のあり方を組織的に検討する。</p> <p>3 自閉・情緒学級新設に伴い、特別支援教育の視点を全教育課程に反映させる。</p>	<p>1 発達障害等を含む個別の支援が必要な児童に対して合理的配慮をはじめとする支援の方策を他機関と連携しより効果的な支援を目指し検討、改善を加えていく。</p> <p>2 保護者との定期的な懇談のもとに親の願いを反映させた支援計画を作成し、児童の発達を促す。</p> <p>3 様々な障害等、様々な視点から理解教育を進める。</p> <p>4 特別支援学級児童や学級に対する理解教育を機会ある毎に関連させて行う。</p>	<p>○特別支援学級が2クラスになったことともあり全校への児童理解や通常の学級児童との交流(交流給食、どんと焼き、学習発表会への援助出演、等)や発信を大事にすることで自然な形で理解が深まった。</p> <p>○巡回相談を活用したり障害に関わる研修会を行ったりすることで効果的な支援の方策を検討し、児童の発達を促す指導に努めることができた。</p> <p>△児童の発達の状況に合わせた特別支援学級だからこそできる支援や指導のあり方をさらに追及していく。</p>
研修(資 質向上の 取組)	<p>1 小中一貫教育「峰山学園」指導の重点を教職員が共通理解し確かな学力を育む校内研修を実施する。</p> <p>2 初任者研修を活用し、教師の指導力向上を目指す。</p> <p>3 教師力の向上に向けた研修や教師の学び合いを重視し教師としての資質能力の向上を図る。</p>	<p>1 峰山学園が目指す「確かな学力」の育成に向けての共通理解を図った上で、重点研究を進める。</p> <p>2 児童実態に基づき、確かな学力育成に向け、何をどのような方法で育むのか、その取組内容の視点を明確に持つ組織的に研究を推進する。(学年の基礎学力定着に向けた数値目標の設定、学力充実の取組との連携等)</p> <p>3 校内研修会が、教師にとつての学び合いの場になるよう、事前に運営委員会、企画委員会を通して目的を明確化した研修会を実施していく。研修会を企画運営させることで各主任の力量アップを図る。</p>	<p>○確かな学力の育成に向け、重点教科を国語科とし、「読む」力に焦点を当てた研究を行った。形成テスト、単元総括テストを自作し、指導と評価の一体化を目指した。「読む」力を伸ばすことができた。</p> <p>○新学習指導要領本格実施に向けた校内研修会を行った。移行に対しての準備を計画的に進め職員の実践を促した。</p> <p>△前半期は計画的な運営委員会、企画委員会を遂行できなかった。後半はタイムなスケジュールのもとに実施したが、年間を見通した運営が必要であった。</p>
次年度に向けた 改善の方向性	<p>・特別支援学校適と判断された児童が入学していただくために特別支援教育、理解教育をさらに進めていく必要がある。</p> <p>・「チームしんさん」の組織的・協働的な取組を大切にしたい学校運営を行い、地域・保護者から信頼される学校作りを進める。</p> <p>・新学習指導要領の趣旨に基づき教育の充実、教職員の力量アップを図る研修会を充実させていく。</p>		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立長岡小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全般を通して「自己肯定感を持ち自分の将来を展望し、共に学ぼうの育成」に努める。</p> <p>(目指す子ども像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲を持って自ら学ぼう子ども ・思いやりのある子ども ・進んで心と体を鍛える子ども 		<p>○研究発表会を目標とし、生徒指導の3機能とユニバーサルデザイン視点の視点を意識した授業づくりを取り組み、目標と指導と評価を一体化した授業づくりを工夫することができた。</p> <p>○特別支援コーディネーターを中心に、児童支援のあり方について検討し、家庭との共通理解を図ることができた。</p> <p>○長岡トークタイム、ペア学習、授業の振り返り活動等、児童に表現する機会を多く設定したが、さらに主体的に表現する力を付けていく必要がある。</p>		<p>笑顔あふれる学校づくり「なががおか大作戦」 何ごとも最後までやりぬこう。[あ]がまん強くつなごう。 [お]思いを伝え合おう。[か]考えをもち行動しよう。 ◎ユニバーサルデザイン(UD)の視点を活かし、主体的・対話的で深い学びを充実させ学力向上を図る。 ・質の高い学力・コミュニケーション能力の育成 ・一人一人を大切に個性や能力を最大限に伸ばす指導 ・人を思いやる豊かな人間性の育成 ・たくましく健やかな心身の育成 ・安心・安全で信頼される学校づくり(環境整備、保護者・地域連携)</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>○質の高い学力の育成 (1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業の推進 (2) 目標と指導と評価の一体化の推進 ○コミュニケーション能力の育成 (3) 言葉の力の育成(対話的学習、ノート指導、トークタイム) ○基礎的・基本的な知識技能の習得 (4) 全校でドリル活用 (5) 峰山学園家庭学習が (6) 放課後・長期休業の補習</p>	<p>(1) 自己肯定感を高め、「わかる」「できる」授業づくりを目標とし、UDの視点、生徒指導の3機能を大切にした授業を展開する。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、市小研の研究とも連動し「深い学び」を追究する。さらに、楽しい授業の工夫と学ばせ意欲を育成する。 (2) 児童実態に応じた目標設定及び学習指導要領完全実施を見据え、評価まで見通した授業づくりを行う。(単元構想・目標の明確化・意欲を高める評価) (3) ノート指導、トークタイム等の工夫、系統性のある指導を進める。 (4) 全校で週2回(月・木)のドリル、週1回(火)補習の活用・充実を図る。 (5) 学期1回の峰山学園家庭学習がらばり週間では、意欲付け、目標の明確化、家庭との連携等、学校全体の動きをつくる。 (6) 放課後・長期休業等の補習では、「ジュニアわくわくスタデイ」「プラスワンスタデイ」等を活用する。</p>	<p>○算数以外の教科・領域の指導目標に、UDと生徒指導を意識し、目標と指導と評価を一体化した授業づくりを工夫した。 ○校内研修を充実させ、工夫・改善を行い授業改善に努めた。 △目に見える学力の課題改善に向けて、さらに少人数であることとを活かしたきめ細やかな指導を進め、個別の課題に迫る取組を継続する。 ○トークタイム、ペア学習、授業の振り返り等、表現する機会を多く設定し、表現力の育成を図ることができた。 △主体的に表現する力を付ける。 ○総括テストを作成する等、目標を明確にして授業づくりを進めることができた。 △各家庭・PTAと連携し、児童の家庭生活における課題を共有し、家庭学習の習慣化を図る取組をさらに進める。</p>		
生徒指導	<p>○人を思いやる豊かな人間性の育成</p>	<p>(1) 生徒指導の3機能を活かし積極的な生徒指導を行い、安心できる居場所のある学校、学級をつくり、学級づくり</p>	<p>○児童の状況を全体で共通理解し、課題となる事象には生徒指導部会・教育相談部会をもち組織的に対応した。</p>		

		<p>(1) いじめの根絶を目標として自己表現できる居心地よい学級・学校づくり</p> <p>(2) 自己肯定感を高める生徒指導の取組</p>	<p>と授業づくりをつなぐ。</p> <p>(2) 特別な教科道徳の授業を中心に、「法やルールに関する教育」「人権教育」などで豊かな人間性をはぐくむとともに、異年齢活動を通して、温かいつながりをつくり居心地のよい学校・学級づくりを進める。</p> <p>(3) いじめ防止委員会を定例化し児童の実態把握、全教職員で情報共有、早期発見・早期対応・早期解消に努める。</p>	<p>△ 学校行事や児童会行事に教職員が協働して取り組み、児童と教職員、児童同士の温かな関係づくりを進める。</p> <p>△ 居心地のよい学校、学級づくりを目指し、指導のスタンス、発達段階、個別の課題等、その原因をしっかりと分析し、課題に迫る。</p> <p>○ いじめアンケートを活用し、実態把握・解消に努めた。</p>
健康(体育)・安全	<p>(1) 健やかな心身を育み、たくましく生きる力の育成</p> <p>(2) 危機管理の充実と安心・安全な学校作り、環境の整備</p>	<p>(1) 不登校・いじめ・問題事象未然防止に向けて、組織的に機能する教育相談体制の充実と取組を推進する。</p> <p>(2) 目標を明確にし継続的な体力づくりの取組を充実する。</p> <p>(3) PTAのテーマにある「早寝、早起き、朝ごはん」を児童自身にも意識させ、家庭生活ががんばり週間を活用しながら、家庭と連携して健康的な生活習慣を確立する。</p> <p>(4) 生命やからだ、健康に関する正しい知識と実践的な態度を育成する。</p>	<p>○ 中間マラソンや縄とび等、計画的に取組を進め、児童の体力向上を図った。</p> <p>○ 避難訓練を実施し、安全行動の確認ができた。</p> <p>○ PTA活動の中にここにこのカーの運行を位置付け、登下校の見守りを継続できた。</p> <p>△ 長岡っ子安全ボランティアの方々の協力体制をさらに拡充する。</p>	
特別支援教育	<p>(1) 児童の特性を踏まえ、合理的配慮の観点に基づいた必要な指導・支援の推進</p>	<p>(1) UDのよさを活かした指導を充実する。</p> <p>(2) 誰もが安心して生活できる学習環境づくりを進める。</p> <p>(3) 行事や体験活動を工夫して自己肯定感を向上させる。</p> <p>(4) コーディネーターを中心に組織的に機能する校内体制を構築する。(他機関との連携)</p>	<p>○ 特別支援コーディネーターを中心に、支援のあり方を検討し家庭との連携も含め取組を進めた。</p> <p>○ UDを意識した授業づくりについて学び、充実を図ることができた。</p> <p>△ 特別支援教育の意義等について、機会をとらえて保護者・地域に発信し、家庭との連携を図り支援を充実させる。</p>	
キャリア教育	<p>○ 夢や希望、将来への展望をはぐくむ</p> <p>(1) 小中一貫教育(丹後学)</p> <p>(2) 体験活動</p>	<p>(1) 小中一貫教育推進計画基本計画を踏まえ、系統的な「総合的な学習の時間」を活用した丹後学を実践すること等で、ふるさとへの愛着をもたせ、身近な仕事を知り、将来の生き方・働き方について考えさせる。</p> <p>(2) 米作り、社会見学、修学旅行等の社会とかわる活動や体験活動を充実させることを通して、興味・関心の幅を広げ自らの役割や働くこと、夢や希望、将来への展望をはぐくむ。</p>	<p>○ 「総合的な学習の時間」等で、京丹後市小中一貫教育基本計画を踏まえ、丹後学をカリキュラムの中に位置付け実践することを通して、自分を見つめ将来への展望をもたせることができた。</p> <p>△ 地域の方々、専門的に優れた外部の方々から力添えをいただき、体験活動や学びを充実させることを目指し、調整する。</p>	
次年度に向けた改善の方向性	<p>(1) 居心地のよい学級づくりと「わかる」「できる」授業づくりについて研究を進め、どの教室でも「主体的・対話的で深い学び」を実現し、どの児童へも基礎学力を定着させるなど、児童の学力向上を目指す。</p> <p>(2) 特別支援教育を進めるとともに、保護者・地域にも発信し「共に学び合い支え合う共生社会の実現」を目指す。</p> <p>(3) 居心地のよい学級づくりや地域と連携した体験活動、学校行事・児童会行事の内容を工夫・充実等カリキュラム・マネジメントを行い、児童が自己肯定感を高め安心できるような生活習慣の乱れやSNSの利用の仕方等の課題に対して、家庭(PTA)と連携を図り取り組むとともに、「よい睡眠」の大切さを児童が理解できる取組を進め、規則正しい生活習慣の確立と安心・安全な生活を守る。</p>			

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮第一小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>◇一人一人が輝き、生き生き活動する学校 【児童】</p> <p>◇やりがいを持って自分の力を発揮する学校 【教職員】</p> <p>◇安心して子どもを任せられる学校【保護者】</p> <p>◇他地域に誇れる地域ともにもある学校 【地域の方】</p>	<p>○組織的授業研究による授業改善 全校体制による補習・補充、家庭との連携充実による基礎学力の安定</p> <p>○組織的な学校教育活動の充実</p> <p>△特性等を踏まえた個に応じた支援による不登校課題等の改善</p> <p>△大宮学園経営の充実と校内組織推進の強化</p>	<p>ねらいが明確でわかりやすい授業による基礎学力の定着</p> <p>組織的で個に応じた指導・補習体制の確立</p> <p>活用する力の育成のための主体的・対話的で深い学びによる授業改善</p> <p>配慮を要する児童へのきめ細かな支援の組織的推進</p> <p>「ななかよし、助け合う」心の育成のための指導の充実</p> <p>諸課題への自己肯定感を高める積極的な生徒指導の充実</p> <p>体力に係る取組の充実と学校を休まない意欲の高揚</p> <p>協調性、自制心、やり抜く力の教育活動全般を通じた育成</p> <p>双方の情報発信と積極的な学校公開の推進</p> <p>関係機関との連携強化と小中一貫教育の積極的推進</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>ねらいが明確でわかりやすい授業による基礎学力の定着</p> <p>組織的で個に応じた指導・補習体制の確立</p> <p>活用する力の育成のための主体的・対話的で深い学びによる授業改善</p> <p>配慮を要する児童へのきめ細かな支援の組織的推進</p> <p>「ななかよし、助け合う」心の育成のための指導の充実</p> <p>諸課題への自己肯定感を高める積極的な生徒指導の充実</p> <p>体力に係る取組の充実と学校を休まない意欲の高揚</p> <p>協調性、自制心、やり抜く力の教育活動全般を通じた育成</p> <p>双方の情報発信と積極的な学校公開の推進</p> <p>関係機関との連携強化と小中一貫教育の積極的推進</p>		
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>・読む力・書く力・確実に計算する力等、基礎学力を定着させるため、ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を計画的に進める。</p> <p>・組織的で個に応じた指導、補習・補充体制を確立させ、基礎学力の充実な定着を図る。</p> <p>・知識・技能を用いて活用する力を育成するため、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を積極的に進める。</p>	<p>・研究推進委員会を中心に、基礎学力の定着のため、ねらいが明確で児童がわかりやすい(具体的手立てのある)授業を研究授業や積極的な授業公開によって学び合う。</p> <p>・学力診断テスト等の結果分析に基づき、補習・補充、発展学習等を組織的に行うことで、国算の基礎学力の定着と個に応じた指導・支援の充実を進める。</p> <p>・身に付けた知識・技能を用いて考える力(活用する力)を育成するため、研究推進委員会を中心となって主体的・対話的で深い学びの実現による授業改善を研究授業の視点とし、日々の授業の中での積極的な実践につなげる。</p>	<p>○校内 ICT 研修等、自校の教職員の実践から学ぶ実践的研修の有効性が確認された。また中学校との外国語活動や道徳の授業での連携が進み、ねらいが明確で児童がわかりやすい授業を様々な教科等で実践していく流れができた。</p> <p>○△各学年の放課後補習、朝ドリルについても計画的に実施できたが、今後は朝学習等で読解力をつけていくための手立てを考えていく必要がある。</p> <p>○DRTにおいて国算とも全ての学年で全国平均を上回った。</p> <p>○活用する力を育成するために、先行授業を含む学年による教材研究や2学年同時の授業研究等、本校ならではの授業研究が研究の質を落とさず会議の精選も図りながら推進された。また学園でも共通した授業の視点で研究授業を推進できた。</p>		
<p>生徒指導</p>	<p>・発達段階に応じた「友だちとなかなかよし、助け合う」気持ちを育成する指導を進める。</p>	<p>・特別活動、学級活動、道徳科を中心に、全教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。特に「他の人とのかわりに関すること」2-(3)についての指導を重視する。</p>	<p>○人権旬間・月間の取組をきっかけとして、児童が自他のよさを見つけたり、再確認したりする機会となっていた。また学年ごとに、指導計画に即した人権学習が進められた。</p> <p>○保護者・児童アンケート結果も、教員目標を大きく上回るなど、「友だちとなかなかよし、助け合う」気持ちの育成が確実に進められてきている。</p>		

	<p>・「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、自己肯定感を高める等、未然防止の視点での積極的な生徒指導を充実させる。</p>	<p>・教師が児童の良さをまた児童同士がお互いの良さや学級活動、多様な異年齢集団での活動の中で計画的・継続的に伝えていくことで、自己肯定感を高め、明るく積極的な学校生活への態度を促進させる。</p>	<p>○△不登校傾向の児童とその家庭の様々な状況に対し、教育相談部を中心に多くの教職員が関わりながら、丁寧な対応や支援がなされたことで、長期の欠席が防止できているが、不登校傾向児童の解消には至っていない。 ○いじめ及び自己肯定感に関わる保護者・児童アンケートの数値目標を上回るなど、日頃の指導や調査に基づく対応への理解が深まっている。</p>
健康(体育)・安全	<p>・2020 東京オリ・パラを踏まえた全体的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導、保護者への啓発により、学校を休まない意欲を高める。 ・感情をコントロールする(協調性)、集団の中で自分を律する(自制心)、自主的に粘り強く取り組む(やり抜く力)態度を積極的に育成する。</p>	<p>・体育の授業と運動し、期間を決め、集中的に朝マラソンや縄跳び等の取組を行ったり、計画的でタイムリーな児童への指導、保護者への啓発を進めたりすることで、体力(特に持久力)向上と休まず学校に来ようとする意欲を高める。 ・協調性・自制心・やり抜く力を育成するため、指導のねらいを明確にした学級、学校の取組及び日々の指導を発達段階に応じて意図的・計画的に推進する。</p>	<p>○マラソン・大縄の取組は、意欲的に取り組ませる手立てを持ち、全体で確認し実施したことにより、体力の向上に繋がった。 △児童数が多いとはいえ、現時点で欠席ゼロの日がなく、休まず学校に来ようとする意欲を家庭と連携してさらに高めていく必要がある。 ○学年や学校の取組等では事前指導やタイムリーな指導によって、着実にレベルアップが図られている。特に音楽発表会での取組では、この3つを意識した指導が意図的・計画的に推進された。</p>
特別支援教育	<p>・学校生活で配慮を必要とする児童へのきめ細かな支援を組織的に推進する。</p>	<p>・支援会議を中心に配慮を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援方法を明確にしながら、担任・保護者と連携した組織的な指導を進める。</p>	<p>○支援学級の校内授業公開は全ての教員に多くの学びがあった。 ○△個別の教育支援計画について確実な作成がなされた。今後は計画に基づく実践の効果を確実に引き継いでいくことが重要である。</p>
開かれた学校づくり	<p>・丁寧で分かりやすい双方向の情報発信による積極的な学校公開を進める。 ・PTA、地域の関係機関、こども園、保育所・中学校等との取組により連携を強化する。</p>	<p>・学校だよりや学級通信、HP 等で学校の様子や肯定的評価を分かりやすく発信したり、保護者等の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 ・PTA との積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。またこども園(保育所)と中学校と学園の小中一貫教育にかかわる研修、取組をねらいを明確にして確実に実施する。</p>	<p>○毎日の HP の更新及び各種通信の発行等によって、タイムリーに学校の教育活動や泊を伴う学校行事の様子を保護者・地域に発信できている。【HP のアクセス数 2 学期約 2 万回】 ○中学校との小中一貫教育に係るニーズに応じた連携の取組(道徳・外国語活動等)が推進された。今後も精選した学園の取組と合わせその充実を図っていく。 ○PTA 活動が、本部役員を中心に計画的で積極的な取組が無理のない範囲で進められている。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 本年度重点目標の学校評価を踏まえ、より実態に合った充実の視点での次年度重点目標の設定と週・月・学期での進捗管理を徹底する。 (1) 保育所・こども園、中学校との連携強化及び家庭とのさらなる連携強化による学力の充実のため、読解力の育成と個に応じた指導をさらに推進 (2) 活用する力の育成、学習意欲向上のための組織的な取組の積極的な実施と新学習指導要領の趣旨を踏まえた特別活動の研究推進 2 重点目標を踏まえた学級経営方針・分掌経営方針・具体的方策の作成と成果の全体の確実な確認によって教員の意欲向上及び資質向上を図る。 (1) 学期ごとの個々の教職員への評価と改善の道筋への指導助言 (2) ふれのない三者での指導関係のさらなる構築</p>		

令和元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮南小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>大宮学園 教育目標</p> <p>「自他を尊重し、自ら学ぶ子どもを育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級づくりを基盤にして、主体的・対話的で深い学びにつなげる授業を研究し、確かな学力をつける。 ・人権意識の育成を図る。 ・体験活動の充実を図る。 	<p>人権教育を基盤とし、互いの良さを認めあえる学級、仲間はずれやいじめの早期発見・対応により、安心して学び活動できる学級、学校づくりを進めることできた。</p> <p>○食育の授業を中心に主体的・対話的で深い学びにつながる授業の研究を深めることができた。</p> <p>△深い学びのできる授業展開の工夫をし、学力の向上を図る。</p>	<p>大宮学園 めざす子ども像</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 (2) 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 (3) 心身を鍛え、活動的な子どもの育成 	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>大宮学園 めざす子ども像</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 意欲的に学び、チャレンジする子どもの育成 (2) 自他を大切にし、思いやりのある子どもの育成 (3) 心身を鍛え、活動的な子どもの育成 		
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題 (自己評価)		
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 中学校との接続を意識した連続性のある指導の充実 (2) 基礎基本の定着と活用する力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる・できる授業者の授業者のため、研究授業を行う。 ・言語活用カリキュラムを活用する。(話し合い活動で表現力を高める。) ・生徒指導の3機能を生かした授業作りをする。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究をする。(算教科を中心に) ・新指導要領全面実施に向けて、道徳・外国語に加えて、プログラミング学習についての研修を行う。 	<p>○京丹後市小中一貫教育授業研究会に向けて、校内だけでなく、学園全体で事前研・事後研を行うことで、算教の授業改善を図ることができた。</p> <p>○総合教育センターの出席授業を活用し、主体的・対話的で深い学びについて学び、自校の実践につなげることができた。</p> <p>○△教職員の努力により、どの学年も落ち着いて学習に臨むことができた。しかし、さらに授業改善の必要な学級もあるので、今後授業研を実施する中で、力をつけさせたい。</p>		
<p>生徒指導</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 児童の人権意識、自尊感情、規範意識を高める。 (2) 児童理解を深める。 (3) いじめの未然防止・早期発見・早期対応を徹底させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例研究を行う。 ・自尊感情を高める取組をする。 ・週に1回は児童の実態交流をし、共通確認を図る。(会議後に時間をとる。) ・実態交流の中で、児童の見方について若い教師に学ばせる場を作り、人権感覚を磨かせる。 ・連絡・報告・相談を欠かさないことを意識づける。 	<p>○毎週1回会議後に児童の実態交流の時間を作るとともに、気になる事象があった時は、生徒指導部を中心に事実確認を行い、方向性を決め、複数で早期対応を図ることができた。</p> <p>△担任によっては、報告が遅れることがあるので、今後も連絡・報告・相談を密にするよう指導していくとともに、児童・教職員の様子を観察し、気が付いたことは早期に指導することが必要である。</p>		

健康 (体 育)・安全	(1) 体力・運動能力の向上 (2) 健康安全教育の充実 (3) 食育・給食指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果を踏まえた授業改善をする。 ・ルールを守り、自他を大切に安全教育、命の教育をする。 ・昨年度の研究を生かし、PTAとも連携を図り、「早寝・早起き・朝ごはん」を意識づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○SNSの安全に関する学習会を、全校児童を対象に実施することで、児童に安全な使い方を考えさせることができた。 ○PTA・教職員が協力して、にこにこカーによる安全パトロールを実施や、多くの安全ボランティアの立ち番や付添登校などにより、安全に登下校ができた。 ○学級園で育てた作物で調理をしたり、給食で使ってもらったりする活動を通して、食育を深めることができた。
(A)危機管理	<ul style="list-style-type: none"> (1) 状況を判断し主体的に行動する態度を育てる。 (2) 児童・教職員の様子を観察し、未然防止・早期発見早期対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練等で学んだことを生かし、災害が起こった時最善の方法を自ら考え行動できる児童を育てる。 ・日々の様子から情報収集をし、危機について未然防止・早期対応ができるよう、連絡・報告・相談を徹底させる。 ・教職員の観察等を通して、実態を的確に把握し、健康管理を図るために働き方を工夫し、超過勤務時間の削減に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不審者の侵入を想定した避難訓練や防犯教室を実施することができた。 ○△超過勤務時間を削減するために、会議時間を削減するだけでなく、個々の教職員の意識改革を図ることができた。(一部課題の残る教職員もある。) △異常気象が続く中、今年度は災害時の引き渡し訓練を実施しなかつたので、来年度は実施する。(不審者対応と隔年で行う。)
(B)特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> (1) 障害のある児童の実態に応じた的確な支援をする。 (2) ユニバーサルデザインの授業を進める。 (3) 児童・保護者のニーズに応じた特別支援教育を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導・教室経営にユニバーサルデザインの視点を取り入れる。 ・適切な児童の見立てをするとともに、効果的な個別の指導計画が作れるよう、学校体制で取り組む。 ・保護者面談を行い、必要があれば外部機関と連携し、保護者のニーズに応えられるような取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教室環境、授業の流れなどに、ユニバーサルデザインの見点を取り入れることができた。 ○電子黒板を活用して、特性のある児童にも、集中しやすい授業になるよう工夫することができた。 △児童の実態に合った学ばふ場所の提供ができるよう、さらに面談を続け、理解を図る必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育を基盤にし、互いの違いや良さを認められる学級・学校づくりを推進する。 ・小中一貫教育の視点を大切に、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を意識した授業改善を進めることにより、児童の学力向上を図る。(算数を中心に) ・外国語・道徳・プログラミング教育などについての実践交流を行い教職員の授業力を高める。 		

元年度 学校評価 自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野北小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 すべての子どもに、未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)	1 網野学園小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体化を図るため、他の小中学校と一体化した教育を推進する。 2 「いごこちのよい学校」「毎日登校できる学校」「よく学ぶ学校」「信頼される学校」をキーワードとした学校経営をする。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)
教育課程指導	1 新学習指導要領へのスムーズな移行を図る。 2 単元全体を通して学力向上に取り組む。 3 網野学園学力向上プログラムを計画的に積み上げ、基礎・基本の定着を図る。 4 児童が意欲的に学習できる場の設定を進める。	1 校内研修で評価等について研修し、認知能力・非認知能力のバランスのよい授業づくり等授業改善に繋げる。 2 単元全体を通して、基礎基本の力、活用力等をつける計画をし、実践する。その結果を単元末テスト等で評価し、次の単元実践に繋げるサイクルについて、算数科の研究授業・公開授業を行い、学び合う。 3 学力補充・スキルタイム・家庭学習等により、授業だけでなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 4 児童が意欲的に学習できる多様な学習形態を取り入れた授業・環境づくりの設定を進める。	○単元全体を構想した授業研究により、認知・非認知能力のバランスのよい授業づくりについて具体的イメージを共有でき、単元末テストの結果も向上傾向が見られた。 ○スキルタイム、家庭学習における反復練習などにより基礎基本の力を付けることに努めた。 国語A B層(3P↑) D E層(5P↓) 算数A B層(3P↑) D E層(3P↓) h30,h31DRRT比較 △D E層の児童に対して、より多くの時間をかけて学習補充をしたが、時間確保が難しい。 ○年度末漢字・算数テストを目標にさせながら、家庭学習の内容の充実を図った。
生徒指導	1 よさを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れる。 2 発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。	1 教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを学級通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。 2 生徒指導の3機能(自己存在感・共感的な人間関係・自己決定の場)を大切にした教育実践を推進する。 3 いじめや問題事象等侵害行為への対応は、迅速、丁寧、組織的に行う。 4 道徳の時間を中心に、特別活動・学級活動等、全ての教育活動を通して道徳教育・人権教育を推進する。「考え議論する道徳」について、授業づくりを進める。	○年間を通して生徒指導の3機能を大切にした指導を継続することで、多人数学級を含めて、学級生活に満足な児童を11ポイント増、不満足な児童を10ポイント減等、いごこちのよい学校づくりを推進できた。 ○いじめに関わる事象が生じた際は、「本校いじめ防止基本方針」により、組織として早期に事実関係を把握する等して、事象の早期解決に繋げることができた。 ○道徳の時間において、ペア学習・グループ学習など対話を重視した授業形態は進んだ。次のステップは、対話の内容を深めることである。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として			

健康(体 育)・安 全	1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図ったり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、学校を休まない強い体を作る。 2 困難なことにも粘り強く挑戦して、いこうとする態度を育成する。 3 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。 全員登校27日以上	1 期間を決め、体力づくりの取組を行い、体育の授業と連動することで、体力(特に持久力)向上を図ったり、PTAと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、休まず学校に登校できる意欲を高める。 2 学校、学級での取組において個々の目指す目標を達成段階に応じて明確にし、特にA「主として自分自身に関すること」[希望と勇気、努力と強い意志]についての指導を重視し、粘り強く挑戦する態度を高める。 ※持久走、遠泳等との計画的、意図的な関係づけ 3 教育相談部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援・手立てを打つ。	△「全員登校27日以上」を目標とし、生活点検、配慮児童の家庭と定期的に面談を持ったりする等丁寧な指導を継続したが、全員出席日は16日であった。3/2現在 保護者アンケート 基本的な生活習慣確立 肯定率90% ○本校伝統の「遠泳大会」に向け、計画的で継続的な指導を積み上げることで、6年児童が八丁浜沖を泳ぎ切ることができた。○駅伝競走大会での成果 8人入賞 保護者アンケート 粘り強く挑戦 肯定率85% ○配慮児童に係る個別の教育支援計画、個別の指導計画を保護者と共に作成、教育実践を積み上げ、評価・改善するサイクルを地道に継続できた。 △深夜におけるUSBメモリー一時紛失という不祥事を起こした。その後は、「京丹後市学校情報通信ネットワーク利用ルール」の徹底を図り、「原則午後8時までの退勤」に努めた。 ○校長通信を活用するなどして、「学校危機は児童の指導の際生じること」「教職員の高い人権意識が必要であること」等、年間を通して危機意識を高めた。 ○緊急対応が必要な場合、PTA本部役員を中心に、情報の共有化を図る等、連携を密にして対処した。 ○見守り隊と連携しながら登校指導をしたり、下校時巡回パトロールの実施をしたりして、安全を確保した。
危機 管理	1 コンプライアンス意識の高揚を図り、保護者、地域の信頼と期待にこたえる。 2 いじめ等問題事象の早期発見・早期解決に努める。 3 超過勤務の縮減に努める。 4 安全な登下校の為に環境づくりを進める。	1 コンプライアンスハンドブック等を活用した校内研修を行う。 2 「人権」を大切にしたい学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。 3 PTA役員等密接な連携を図りながら、課題解決に臨む。 4 超過勤務時間の実態共有化と年間を通して縮減の働きかけ、校務改善に努める。 5 見守り隊と日常的な連携を図る。	△深夜におけるUSBメモリー一時紛失という不祥事を起こした。その後は、「京丹後市学校情報通信ネットワーク利用ルール」の徹底を図り、「原則午後8時までの退勤」に努めた。 ○校長通信を活用するなどして、「学校危機は児童の指導の際生じること」「教職員の高い人権意識が必要であること」等、年間を通して危機意識を高めた。 ○緊急対応が必要な場合、PTA本部役員を中心に、情報の共有化を図る等、連携を密にして対処した。 ○見守り隊と連携しながら登校指導をしたり、下校時巡回パトロールの実施をしたりして、安全を確保した。
開かれた 学校 づくり	1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。 2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。	1 学校だよりや学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。 2 学校公開日を設け、保護者や地域住民の学校参観を促進する。 3 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。	○学校だより、学級通信や、ホームページ等で児童のがらばりの様子を伝えることで、学校の取組状況について情報発信できた。保護者アンケート肯定率94% ※ホームページのアクセス数1日に約250件 ○学校公開日 6月 8日(土) 祖父母参観、給食試食 11月 9日(土) 学習発表会等
次年度に向けた 改善の方向性	△カリキュラムマネジメントによる特別支援学級の経営 △牛乳パック、フッ化物洗口への対応 △情報の危機管理などの徹底の継続 △年間を見通した計画的な環境整備	△不登校傾向児童、教室に入れない児童、家庭への対応 △学力DE層への学力補充の一層の具体	○学校公開日 6月 8日(土) 祖父母参観、給食試食 11月 9日(土) 学習発表会等

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野南小学校]

評価項目 教育課程 学習指導 生徒指導	重点目標 ○「よく学ぶ」学校 基礎的・基本的な学習内 容の習熟と、課題解決に 必要な思考力・判断力・ 表現力を育成する。	前年度の成果と課題 ○計画的な授業研究の積み上げによる課題設定、発問 等の工夫についての研究の推進 ○人間関係を構築するための取組の実施と目標に沿っ た振り返りによる価値づけ △学習内容の確実な定着、「深い学び」を具現化する授 業づくり △家庭環境の厳しい児童、不登校傾向児童、低学力児 童への一層の具体的な指導 △働き方改革に係る学校運営の改善（教職員の意識変 革）	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 1 学校再配置6年目。児童が安心して学校生活を送 り、各自の力を最大限発揮できる教育環境をつく る。 2 網野学園小中一貫教育の「目指す子ども像」の具体 化を図るため、他の小中学校と一体化した教育を推 進する。 3 「いごこちのよい」「よく学ぶ」「毎日登校できる」 をキーワードとした学校経営を行う。 4 基本的な学校運営システムを構築する。	成果と課題 (自己評価) ○算教科を重点教科とした校内研究を進め「見方・考 え方」に着目した授業づくりを進めることができ た。 △児童自らが主体的に学び、仲間と協働しながら考え を深めていくため発問の工夫やコーナーネットに ついて更に研究を進める必要がある。 ○網野学園学力充実月間にスキルタイムを設けドリ ル学習を取り入れたり、年間を通して補充学習会を 行ったりすることで、基礎学力の定着を図ることが できた。 ○個々の児童の特性を教職員全員で共有理解し、個に 応じた丁寧な指導を行うことができたこと、いじ めめや問題事象の未然防止につながった。 ○いじめめや問題事象等に対して生徒指導部やいじめ 対策委員会等で組織的に対応することができ、早期解 決できた。 ○年間通して児童相互の人間関係(つながり)を大切 に教育活動を進めることができた。特に丁寧な評価 や振り返りを行うこととで、取組の意味や価値を考え させることができた。 △物が壊れるなど行為不明の事象に対して学級指 導や全体指導を行った。規範意識を高めるために今 後、更に人権学習や道徳教育を進め心の教育を進め る必要がある。
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として	○「いごこちのよい学校」 互いのよさでつながり合 える人間関係を構築する とともに、規律を守り、 いじめ・暴言等を許さな い機運を高める。「いじ め」等問題事象の早期発 見・早期解消に努める。	・日々の関わりの中で、生徒指導の3機能(自己決定・ 自己存在感・共感的人間関係)を大切にしたい教育実 践を推進する。 ・教育活動を通して、それぞれの目標や目的、児童の 姿勢等について、具体的な評価と行動の振り返りを積 み重ねる。(指導者としても、児童自身も振り返りを 重視する。) ・網野学園「これだけは」(授業規律確立と規範意識醸 成)等で、ルールの大切さの価値付けや共有化を図 る。 ・いじめめや問題事象等の対応については、窓口の一本 化(教頭)とし、正確に事実を確認することを原則 として、迅速に、丁寧に、組織的に行う。	・網野学園と校内研究と連動させ、「ものの見方・考え 方」に着目した授業づくりを進める。 ・授業及び学力補充の取組や網野学園学力向上の取組 を効果的に実施し、基礎学力(読み・書き・計算等 の習熟)や学習習慣の定着、家庭学習の充実を努め る。 ・来年度の新学習指導要領の全面実施に向け、資質・ 能力の育成に向け、校内研究体制を整え、「主体的、 対話的で深い学び」を意識した授業改善を行う。	

<p>健康（体 育）・安全</p>	<p>○「毎日登校できる」学校生活リズムを整え、毎日登校し、目標を定め、挑戦しようとする態度を培う。</p>	<p>・ 網野学園「これだけは！家庭編」をもとに、各家庭やPTAとの連携を図り、生活リズムの確立を目指す。 ・ 家庭支援の必要な児童については、ケース会議やSSWの活用により、個に応じたきめ細やかな支援を行える体制を構築する。 ・ 毎朝の児童の様子及び登校の状況を把握し、該当分掌と連携した指導や取組を行い、より安全な登下校の確保や不登校（登校しぶり傾向）の早期発見を行う。 ・ 非行防止教室・乗物乱用防止教室、自転車教室等を早期に実施し、安全についての意識を高める。 ・ 情報モラル教育を進め、家庭でのルール作りやネットやゲームとの上手な付き合い方についての意識の向上を目指す。 ・ コンブライアンスハンドブック等を活用した校内研修を行う。 ・ 児童、教職員の人権を大切にしたい学校経営をし、日頃から教職員間で何でも話せる関係づくりに努める。 ・ 超過勤務時間実態共有化と年間を通じた縮減の働きかけをする。 ・ PTA活動の一貫としてあいさつ運動を進めるとともに、民生児童委員、スクールガードリーダー、警察との連携による、登下校の見守り活動を推進する。</p>	<p>○ 毎朝の登校の様子を見守ることで児童の状況を把握するとともに、登校しづらい児童への対応を教育相談部を中心に組織的にを行い、不登校の未然防止や早期解決を行うことができている。 ○ 配慮が必要な児童について、特別支援コーディネーターを中心にSC・SSWとの連携、校内ケース会議の実施により、個に応じた丁寧な支援を行うことができた。 ○ 学級懇談会やPTA総会でネットやゲーム使用の現状や上手な付き合い方等について情報提供し、家庭で考える機会を作ることができた。また4年生対象のSNS講習会を通して情報モラル教育を進めることができた。 △ ネットやゲームの使用時間（就寝時間含む）について、自律できる力を付ける必要がある。 ○ セクハラ、わいせつ等失墜信用行為について研修したり、校内で起きた問題や新聞報道された内容について情報共有したりすることで再発防止や注意喚起することができた。 ○ 長時間勤務の実態把握を行い、各教職員の自覚を促すとともに、その縮減に向け、行事や取組内容の見直しや業務内容の改善を進めることができ、勤務状況アンケートでは昨年度に比べ負担が軽減された項目が増えた。 ○ PTAで朝のハイタッチ運動を年間通して実施していただいたことや地域の方々の見守りにより安全に登校することができた。 △ 勤務時間の縮減を更に進める。 ○ 学習支援ボランティアや読み聞かせボランティアなど地域の人材や地域の事業所と連携し教育活動を進めることができたこと、地域への愛着を深めることができた。 ○ ホームページ等の更新をこまめに行い、学校の様子を保護者、地域の方々に広く広げていただくことができた（1日の閲覧数300件～500件） △ 学校関係者の方への授業参観や行事の案内が不十分であった。</p>
<p>危機管理</p>	<p>コンブライアンス意識の高揚を図り、保護者、地域の信頼と期待に応える。 超過勤務の縮減に努める。 安全な登下校の環境づくりを進める。</p>	<p>・ PTA役員等と丁寧な連携を図りながら、課題解決に臨む。 ・ 地域の人材を生かした教育活動を推進する。 ・ 学校や児童の様子を知ってもらうため、学校関係者については、年間を通して授業参観の機会を広報する。 ・ 学校便り、ホームページ等で、子ども達の様子について積極的な情報発信を行う。</p>	<p>○ 毎朝の登校の様子を見守ることで児童の状況を把握するとともに、登校しづらい児童への対応を教育相談部を中心に組織的にを行い、不登校の未然防止や早期解決を行うことができている。 ○ 配慮が必要な児童について、特別支援コーディネーターを中心にSC・SSWとの連携、校内ケース会議の実施により、個に応じた丁寧な支援を行うことができた。 ○ 学級懇談会やPTA総会でネットやゲーム使用の現状や上手な付き合い方等について情報提供し、家庭で考える機会を作ることができた。また4年生対象のSNS講習会を通して情報モラル教育を進めることができた。 △ ネットやゲームの使用時間（就寝時間含む）について、自律できる力を付ける必要がある。 ○ セクハラ、わいせつ等失墜信用行為について研修したり、校内で起きた問題や新聞報道された内容について情報共有したりすることで再発防止や注意喚起することができた。 ○ 長時間勤務の実態把握を行い、各教職員の自覚を促すとともに、その縮減に向け、行事や取組内容の見直しや業務内容の改善を進めることができ、勤務状況アンケートでは昨年度に比べ負担が軽減された項目が増えた。 ○ PTAで朝のハイタッチ運動を年間通して実施していただいたことや地域の方々の見守りにより安全に登校することができた。 △ 勤務時間の縮減を更に進める。 ○ 学習支援ボランティアや読み聞かせボランティアなど地域の人材や地域の事業所と連携し教育活動を進めることができたこと、地域への愛着を深めることができた。 ○ ホームページ等の更新をこまめに行い、学校の様子を保護者、地域の方々に広く広げていただくことができた（1日の閲覧数300件～500件） △ 学校関係者の方への授業参観や行事の案内が不十分であった。</p>
<p>次年度に向けた改善の方向性</p>	<p>1 基礎基本の定着と言語活動の充実を目指した授業づくり 2 主体的・対話的な授業を通じた深い学びの実現 3 人権教育を基盤においた心の教育の充実 4 家庭との連携による情報モラル教育の推進 5 業務改善による働き方改革の推進</p>	<p>コンブライアンス意識の高揚を図り、保護者、地域の信頼と期待に応える。 超過勤務の縮減に努める。 安全な登下校の環境づくりを進める。</p>	<p>○ 毎朝の登校の様子を見守ることで児童の状況を把握するとともに、登校しづらい児童への対応を教育相談部を中心に組織的にを行い、不登校の未然防止や早期解決を行うことができている。 ○ 配慮が必要な児童について、特別支援コーディネーターを中心にSC・SSWとの連携、校内ケース会議の実施により、個に応じた丁寧な支援を行うことができた。 ○ 学級懇談会やPTA総会でネットやゲーム使用の現状や上手な付き合い方等について情報提供し、家庭で考える機会を作ることができた。また4年生対象のSNS講習会を通して情報モラル教育を進めることができた。 △ ネットやゲームの使用時間（就寝時間含む）について、自律できる力を付ける必要がある。 ○ セクハラ、わいせつ等失墜信用行為について研修したり、校内で起きた問題や新聞報道された内容について情報共有したりすることで再発防止や注意喚起することができた。 ○ 長時間勤務の実態把握を行い、各教職員の自覚を促すとともに、その縮減に向け、行事や取組内容の見直しや業務内容の改善を進めることができ、勤務状況アンケートでは昨年度に比べ負担が軽減された項目が増えた。 ○ PTAで朝のハイタッチ運動を年間通して実施していただいたことや地域の方々の見守りにより安全に登校することができた。 △ 勤務時間の縮減を更に進める。 ○ 学習支援ボランティアや読み聞かせボランティアなど地域の人材や地域の事業所と連携し教育活動を進めることができたこと、地域への愛着を深めることができた。 ○ ホームページ等の更新をこまめに行い、学校の様子を保護者、地域の方々に広く広げていただくことができた（1日の閲覧数300件～500件） △ 学校関係者の方への授業参観や行事の案内が不十分であった。</p>

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立島津小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業による学力を付ける。	2 すべての子どもの未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。	3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。	4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	1 外国語・外国語活動の向上と必然性のある言語活動の授業スタイルが確立してきた。	○外国語・外国語活動の研究推進により、コミュニケーション力の向上と必然性のある言語活動の授業スタイルが確立してきた。
2 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業による学力を付ける。	3 すべての子どもの未来を展望し、自ら将来を切り拓く力を付ける。	4 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。	5 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	○ニュージャーランドの小学生とのライブ交流が実現し、英語を学ぶ意欲の向上と世界への視野が広がった。	○ニュージャーランドの小学生とのライブ交流が実現し、英語を学ぶ意欲の向上と世界への視野が広がった。
3 思いやりをもち仲間と共に生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。	4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。	5 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。		△低・中学年では学校で甘えを出す傾向が見られ、遊びの中のトラブルが多く起きた。	△低・中学年では学校で甘えを出す傾向が見られ、遊びの中のトラブルが多く起きた。
4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。				○丹後学での学びを通して地域のことを知り、地域とつながり、地域の方々へ発信することができた。	○丹後学での学びを通して地域のことを知り、地域とつながり、地域の方々へ発信することができた。
評価項目	重点目標	具 体 的 方 策		成 果 と 課 題 (自 己 評 価)	
本市の小中一貫教育の諸計画を基盤として	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網野学園の共通指導事項を踏まえた指導を通して、授業改善・学力充実の取組を進める。 ・ 網野学園の取組と連携し、学力向上プログラムを基にした取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網野学園「これだけは！」を日常的に実践し、三者及び企画委員会での評価をしながら全校でやる。 ・ 特に、授業編の3つの柱を授業研究会や日頃の授業でも運動させ、学びを深める。(評価の工夫) ・ 朝読書、チャレンジタイムへの評価・改善により、ねらいを明確にした時間として充実させる。 ・ 網野学園と連動して、家庭学習がらばり週間を実施し、効果を高める。(PTAとの連携事業) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 網野学園「これだけは！」を意識した授業改善や取組を組織的に推進することができた。 △ 教科・領域によっては授業改善の状況に課題が残った。 ○ 学力充実の取組は、学力向上プログラムにそった基本的な取組はできた。図書の貸し出し冊数も三千冊を超え昨年度を上回った。 ○ 家庭学習がらばり週間には課題を焦点化して取り組み、時間の改善が見られた。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網野学園「これだけは！」の規範意識の醸成を、日常の中で実践する。 ・ 「島小システム」を機能させ、目標に向けて意欲的に活動する児童を育成する。 ・ 生徒指導の3機能を生かし、いじめ防止の取組を行う。 ・ 心の教育を充実し、自己肯定感を高める取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導の3機能を学校の教育活動全体に生かし、主体的に判断し行動する児童の育成に努め、いじめのない学校を目指す。 ・ 学期毎に内部評価アンケートを実施し、指導の検証をして改善に活かす。 ・ 全ての計画に、短期目標「合言葉」を実践する内容を意図的に取り入れる。 ・ 生徒指導部を中心とする、問題事象の早期発見・早期解決を組織的に行う仕組みを定着させる。 ・ 児童会活動を通して異年齢活動やチームの活動を活発にする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒指導部を中心として、生徒指導の3機能を意識した授業づくり、学級づくりを行い、いじめや問題事象の早期解決・未然防止につながった。 ○ 評価アンケートを活用し、改善の必要な点を全校の場を生かして指導できた。 ○ 2カ月サイクルで示した「合言葉」は、児童に目指す方向性がわかりやすく、取組の活性化につながった。 ○ 児童会活動でも生徒指導の3機能をふまえた指導が日々積み上げられ、児童の変容が見られた。 	

健康(体 育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 網野学園家庭編に基づき、PTAに働きかけ、家庭と連携した取組を進める。 ・ 朝の体力づくりを、教育活動全体を通じて効果的な内容に改善し、充実を図る。 ・ 日々の生活・活動を通して「安全」を考えさせ、実践させる場面を作る。 ・ 実態に合わせた指導を工夫し、食に関する学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> △ 基本的な生活習慣への意識は高いが、寝る時刻に30パーセント課題が残った。 ○ 朝の体力づくりは行事とリンクさせて計画的に行うことで、児童が目標に向かって意欲的に取り組んだ。 ○ 集団生活の中で安全な生活への指導を行い、誰にとっても楽しい学校への意識が高まりつつある。 ○ 米作りの学習や栄養教諭による食育授業は、食に関する学習意欲を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「外国語・外国語活動」の授業の中で大切に指導してきた3点が、その他の授業や取組に大きく影響し、間違ふことを恐れず考えを出し合っして学び合う基礎ができた。(肯定的評価が98%) ○ 研究大会では、児童の姿をとって研究の成果を発信することができた。 ○ イングレウッド小学校とライブ交流が3回実施でき、英語への興味や意欲がさらに高まった。 ○ 生活科の校区探検や丹後学等で、「琴引浜」や地域の自然や遺跡に関心をもち学習を行うことができた。その学びを学習発表会等で発信することでもできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級の存在が、学校全体に温かさを与え、心地よさが広がった。 ○ 外部の医療機関やSC・SSWと連携した継続的な取組を丁寧に進めた。 ○ 個別の支援計画・個別の指導計画を作成し、配慮の必要な児童への具体的な指導・支援を行い、一人一人の自立を目指した取組が進んだ。 △ 引き継ぎを丁寧に行い一人一人の自立を目指した取組を保護者と連携し継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級の存在が、学校全体に温かさを与え、心地よさが広がった。 ○ 外部の医療機関やSC・SSWと連携した継続的な取組を丁寧に進めた。 ○ 個別の支援計画・個別の指導計画を作成し、配慮の必要な児童への具体的な指導・支援を行い、一人一人の自立を目指した取組が進んだ。 △ 引き継ぎを丁寧に行い一人一人の自立を目指した取組を保護者と連携し継続する。
特色ある 学校 り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外国語活動指導力の向上を図る。 ・ 豊かな体験を基にした国際理解教育実践を推進する。 ・ 「琴引き浜」をテーマとして、積極的に地域に学習の成果を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「外国語・外国語活動」の授業を通して、コミュニケーション力を高める。また、その力を他教科に生かし、自分の考えを活発に出し合い主体的・対話的で深い学びのある授業づくりを進める。 ・ 3年次の教育研究大会を通して、3年間の外国語教育の研究成果を広く発信し、今後の教育活動に生かす。 ・ イングレウッド・プライマリー小学校との交流を年間計画に位置付けて、ライブ交流を行い豊かな異文化体験を行う。 ・ 「琴引き浜」学習を通して、地域の方々に「教えていただき」、「発信する」機会を積極的に設け、つながりや地域の良さを実感させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級の必要を児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・ 外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進める。 ・ 該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした就学指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級の必要を児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・ 外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進める。 ・ 該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした就学指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級の必要を児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・ 外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進める。 ・ 該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした就学指導を進める。
次年度に向けた 改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ① 外国語科の評価の在り方についての授業研究を重点とし、今年度までの成果をさらに発展させる。 ② 外国語教育で付けたコミュニケーション力を他教科や領域に生かし、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 ③ 小小連携・小中連携をもとにした研究の視点もさらに充実させ、網野学園としての取組を効果的に進める。 ④ 在籍が2名となる次年度、更に特別支援学級を学校教育の軸にして教育的ニーズに応じた支援を適切に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級の必要を児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・ 外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進める。 ・ 該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした就学指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級の必要を児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・ 外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進める。 ・ 該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした就学指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級の必要を児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・ 外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進める。 ・ 該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした就学指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援学級の必要を児童に対して、ケース会議を設置し組織的な対応をする。 ・ 外部の専門機関と連携し、特性についての知見を広げたり、特別支援教育指導員の効果的な活用による指導・支援を行ったりして、一人一人の自立を目指した取組を進める。 ・ 該当保護者に特性に応じた支援についての理解を基盤とした就学指導を進める。

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立橋小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>【教育目標】 「将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす児童・生徒の育成を図る教育の推進」 【目指す子ども像】 【目指す子ども像】 【あ】 積極的に進んで学ぶ子ども 【知】 意欲的な学びを学ぶ子ども 【み】 みんなが支え合える子ども 【徳】 規範意識を持ち、仲間と支え合う子ども 【の】 のびのび生き生きやなりぬく子ども 【体】 粘り強く心身を鍛え、やりぬく子ども 【自然・人・社会とのつながり】 【学園経営の基本方針】 【心】 自然・人・社会とのつながりを愛する心を育てる。(特に重視)</p>	<p>○ 網野学園小中一貫教育：「これだけは！」で付けた力を意識し、授業づくり、家庭との連携等、教育活動に波及させ、課題解決の取組を推進 ○ 学習指導では、研究推進部、学力充実部の方針に沿った学年とも授業での言語力育成、ドリル時間等を活用した計算力、語彙力、漢字力等の定着を図った。 ○ 特別活動、運動部、生徒指導部等が、児童会活動の充実、月目標の取組などを進め、全校児童の絆が深まり規範意識の向上を図った。 △ 日常的に隣接学年で教材研究等を行い授業力向上に努める。 △ 要配慮児童等への対応について共通理解を図る。</p>	<p>【教育活動の目標】 「つながり、たくましく生き抜く、たっち子の育成」 ～ 智恵を磨き、笑顔を、挑戦する姿を目指し～ (平成31年度 京丹後市指導の重点 目指す教育「子ども像」心豊かにたくましく…」「ふるさとへの愛着と誇り…」 「将来に夢と希望をもって生き生きと学ぶ子ども」に着目) 【教育活動の具現化に向け】 プロジェクトT (たっち、つながり、プロジェクト) たちばな つながり、たくましく生き生きと 智恵をみがこう；知・主体的・対話的で深い学び」 場を大切にしよう；徳・豊かな人間関係の追究 何事も最後までやりぬこう；体・強い心と体</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p>	<p>成果と課題 (自己評価)</p>	<p>○ 学校教育目標の具現化を一定意識した教職員、児童の働きと地域への発信が進んだ。 ○ 教務主任を中心に組織の中核的な役割を果たすミドルリーダーの活躍 ○ 市給食研究会を開催し、地域の食等を考えさせ、食育の意義を校内外に広く発信した。 ○ 生徒指導の三機能(自己存在感・自己有用感・共感的人間関係)の充実を推進し、自己決定の視点を大切に、授業づくりや異年齢活動の充実を推進することできた。 △ 新4年生の学力補充の指導の生徒指導の困難さとその体制づくり ○ 生徒指導の三機能(自己存在感・自己有用感・共感的人間関係)の充実を推進し、自己決定の視点を大切に、授業づくりや異年齢活動の充実を推進することできた。 ○ 「児童会活動と学校目標の一致した動き」の活性化児童会目標に「つながり、月目標、学級目標の設定した」とともに、道徳教育や人権学習等の取組を通して、温かいもの、日々の見方、違いを認め合える関係づくりに努める。</p>
<p>本市の小中一貫教育の基盤として</p>	<p>教育課程 学習指導</p>	<p>生徒指導</p>	<p>具体的方策</p>	<p>学習意欲を高める指導工夫の交流 ◇ 算教科を重点教科とした研究を推進し、主体的・対話的に深い学びの授業改善を行う。 ◇ 先行実施した「外国語活動」「外国語」の効果的な授業に向けた実技研修 ◇ 「考え、議論する道徳の時間」を全担任が指導・評価する ◇ 「たっち」の早期の校内研修と取組のPDCA ◇ 担任とSSが連携し効果的な指導を行い、特別支援学級、生活科、総合的な学習の時間の学習を通して、丹後学を参考に地域の魅力をもとめ、発信する力の育成 ◇ 市小研給食研究会の指定校として、地域の食等を考えさせ食育の意義を校内外に広く発信する。</p>	<p>○ 学習意欲を高める指導工夫の交流 ◇ 算教科を重点教科とした研究を推進し、主体的・対話的に深い学びの授業改善を行う。 ◇ 先行実施した「外国語活動」「外国語」の効果的な授業に向けた実技研修 ◇ 「考え、議論する道徳の時間」を全担任が指導・評価する ◇ 「たっち」の早期の校内研修と取組のPDCA ◇ 担任とSSが連携し効果的な指導を行い、特別支援学級、生活科、総合的な学習の時間の学習を通して、丹後学を参考に地域の魅力をもとめ、発信する力の育成 ◇ 市小研給食研究会の指定校として、地域の食等を考えさせ食育の意義を校内外に広く発信する。</p>
<p>重点目標</p>	<p>1 一人一人の個性・よさ・可能性を伸ばすことと意欲的に学び、将来に夢と希望をもつ児童を育てる。(教育活動の具現化①つながり、たくましく生き生きと)</p> <p>2 主体的・対話的で深い学びの具現化に向け、学級づくりと授業づくりを連動させ、言語活動を充実させる。 (教育活動の具現化②智恵をみがこう；「主体的・対話的で深い学び」)</p>	<p>1 豊かな人間関係を築き、支え合える。(教育活動の具現化③つながり、たくましく生き生きと、場を大切にしよう)</p>			

<p>健康(体 育)・安全</p>	<p>1 何事も最後まであきらめずに取り組む粘り強い心を育てる。 (教育活動の具現化④何事も最後までやりぬこう：体・強い心と体)</p>	<p>◇生徒指導部と特別活動部との連携により、月目標の設定・提案をし、全学年が具体的な取組を行い生活の向上を目指す。 ◇オオパパーク教育を取り入れた授業づくり。 ◇朝の体力づくりの取組等を通して、児童が目標達成に向けて最後まで粘り強く取り組む力を付ける。(市小学校駅伝、シオパーク駅伝大会に向けた取組の重視) ◇生活習慣の乱れから、学習意欲が減退しがちな児童に対して、養護教諭、担任を中心にきめ細やかな指導の徹底 ◇6年生を中心にチャリン配りや看板作り、全学年の交通安全教室などに取り組む、安心安全な学校を目指す。 ◇網野学園におけるコミュニティ・スクール趣旨理解の促進を図り、学校運営協議会を核に地域の声を学校運営に生かす。 ◇地域学校協働活動本部の事業、地域やPTAの支援を積極的に教育課程に取り入れ、教職員の働き方改革につながる。</p>	<p>○市小学校駅伝、シオパーク駅伝大会に向けた取組により、本校の強みを大いに発信した。 ○朝の体力作り粘り強く取り組んだ意義が大きい ○月目標を設定し、各学年で具体的な動きをすることで、自ら学校生活を高める機運が高まった。 △ゲート前の生かして家庭と連携をさらに深める。 △児童の正しい乗り方について、繰り返し指導を行い交通安全に対する実践力を高めたい。校内でも危機管理意識を高め、怪我を減少させたい。</p>
<p>開かれた 学校づくり</p>	<p>1 学校や地域の特色を踏まえつつ、社会に開かれた教育課程の実現に向けた力(コミュニティ・スクール)の推進を図り「地域と子どもに育つ学校」を目指す。 (教育活動の具現化①つなごう、たくましく生き生きと)</p>	<p>◇新学習指導要領移行期として、全教職員が趣旨を十分理解し、学び合う研修の設定 ◇「教員等の資質能力の向上に関する指標」に基づいたキヤリアステージに忠じた資質の向上を図られるよう日々の声かけ等含む教職員の長所の伸長を図る。 ◇働き方改革の校内研修を実施しより効率的な業務改善が進むように教職員の意識改革を図る。</p>	<p>○「地域と子どもに育つ学校づくり」の推進 ア地区運動会、マラソン大会、海の検定等で地域に発信した。地域に元気を！ イ公民館会議等に積極的に参加し、子どもの頑張りを地域で発揮できるように働きかける。 ウ児童園、老人ホームの方の復活・マラソンコンクール学習発表会、発表会を地区文化祭と共催し文化の発信地として盛り上げ。 エ芸術の秋、地区の文化的行事を学校として盛り上げる。 オ授業の外部講師を年間約70日、延べ約100名以上の方にお世話になる。「本物に触れる教育」を推進(地域の窓口となる教職員の業務過多(地域連携担当教員)の設置)</p>
<p>研修(資 質向上の 取組)</p>	<p>1 学校課題に見合う研修テーマとし課題克服を図る。 2 教職員が自己課題を踏まえた研修テーマを設定し指導力を高める。</p>	<p>◇新学習指導要領移行期として、全教職員が趣旨を十分理解し、学び合う研修の設定 ◇「教員等の資質能力の向上に関する指標」に基づいたキヤリアステージに忠じた資質の向上を図られるよう日々の声かけ等含む教職員の長所の伸長を図る。 ◇働き方改革の校内研修を実施しより効率的な業務改善が進むように教職員の意識改革を図る。</p>	<p>○教務主任がリードし授業改善、教育課程の進行管理、学習評価の研修など積極的実施し研修が深まり個々の資質向上に寄与した。 ○働き方改革を具体的に推進した。教頭・教務を核に企画会議、職員周知を行い実践した。 ア休憩時間の確保・1時限を早め、昼読書を設置、AB交代制で指導と休憩を確保 イ業務の精選・行事、児童会、PTA、分掌、対外業務、学習指導等の月毎に仕分け ウ会議の精選・職員会議、校内研修会、PTA、各部会の会議の削減、連絡調整事項へ移行、会議時刻を19:00開始、開始時刻厳守等 △教員個々に見合う資質向上の指導助言とその進行管理を図る「学校づくり」</p>
<p>年度に向け 改善の方向 性</p>	<p>方針 ① 中学校進学後を含む社会に出た際、つましく生き抜く人材」の育成を地域に推進 ② 地域とともにある学校づくりをさらに推進 ③ 学館、民生委員、等目指す子ども像の共有 ④ 学館、民生委員、等目指す子ども像の共有 ⑤ 学館、民生委員、等目指す子ども像の共有 ⑥ 学館、民生委員、等目指す子ども像の共有</p>	<p>① 風通しの良い明るい職員室「チーム橋」協働性の向上 ③ 個に応じた学習指導要領全面実施を見越した業務改善による働き方改革の推進 ② プロジェクトT (たちばな、つながり、プロジェクト) ~ 特別支援教育の推進 ④ 学習指導要領具現化 ~ プロジェクトT (たちばな、つながり、プロジェクト) ~ 特別支援教育の推進 ⑤ 学習指導要領具現化 ~ プロジェクトT (たちばな、つながり、プロジェクト) ~ 特別支援教育の推進 ⑥ 学習指導要領具現化 ~ プロジェクトT (たちばな、つながり、プロジェクト) ~ 特別支援教育の推進</p>	<p>○「主体的・対話的で深い学び」の追究 ・ 知(ち)恵をみがこう ・ 豊かな人間関係の追究 ・ 何(なに)事もやりぬこう ・ 体 ・ 強い心と体の追究</p>

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>教育目標 (丹後学園共通)</p> <p>「夢と希望と創造性あふれる豊かな心を持ち、未来に向けて主体的に生きる子どもの育成」</p> <p>＜目指す学校像＞</p> <p>1 よく考え学ぶ学校</p> <p>2 友だちと仲良くする学校</p> <p>3 最後まで粘り強く努力する学校</p> <p>4 家庭・地域のつながりを生かした学校</p>	<p>基礎基本を定着させる学習を、全校チャレンジとして取り組むことができた。</p> <p>○異年齢活動とおおして、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年へ配慮ができるようになった。</p> <p>△学力向上を目指して、個別指導に取り組んだが、学習の定着に課題が残った。</p> <p>△研究推進からの提起による授業研をもつことができ、学ぶことができたが、コミュニケーション能力の育成を意識した日常的な実践に引き続き心がける必要がある。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>・新学習指導要領の理念である地域に開かれた特色ある学校を目指し、児童・保護者・地域の人達にとっても「丹後小学校」ができてよかったと思えるように、児童同士のつながりを大切にしながら学校経営を行う。</p> <p>・少人数である旧豊栄小学校区の児童に配慮をしながら、お互いのよさを生かしていきけるような学校経営を行っていき、学力課題や不登校問題の解決を目指していく。</p>	<p>本年度の成果と課題</p> <p>○基礎基本を定着させる学習を、全校チャレンジとして取り組むことができた。</p> <p>○異年齢活動とおおして、高学年はリーダーとしての意識が高まり、低学年へ配慮ができるようになった。</p> <p>△学力向上を目指して、個別指導に取り組んだが、学習の定着に課題が残った。</p> <p>△研究推進からの提起による授業研をもつことができ、学ぶことができたが、コミュニケーション能力の育成を意識した日常的な実践に引き続き心がける必要がある。</p>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○新学習指導要領の理念や育成すべき資質・能力について共通確認し、単元の指導構想のための単元シートを導入し研究を進めることができた。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善につなげて、点の知識をつないで、高次の深い学習につなげて少人数指導を実施して、効果を上げることができたが、少人数指導ができていない学級によっては課題が残った。</p> <p>○異年齢での学級掃除に取り組み、児童の頑張りがあいつつ、生活面での良さを玄関ホールでのホワイトボードに毎日掲示することで、相互理解が図られ規範意識が高まってきている。</p> <p>○不登校傾向の児童については、ほぼ毎日登校し、大幅に改善を図ることができてきている。中学校とも連携をして、受け入れ態勢についても準備している。</p> <p>○いじめアンケート以外に教育相談部を中心に年3回のアンケートと面談を実施していき防ぎを行った。</p>	
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p> <p>生徒指導</p>	<p>重点目標</p> <p>・単元の指導構想をもとに、単元を通してどんな力をつけたのか、何をどこまでできるようにするのかを明らかにする。</p> <p>・「学び合い」を通して、「わかる」「できる」を実感させ、「深い学び」につなげる授業づくりを進める。</p> <p>・生徒指導の3機能を踏まえた、就学前から中学校まで一貫した生徒指導を進める。</p> <p>・いじめ、不登校の未然防止及び解消にむけた教育相談活動を充実させる。</p>	<p>具体的方策</p> <p>・丹後学園の研究主題である「子どものコミュニケーション能力を育成する」～生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的な人間関係)を生かした取組の充実～と併せて、本校の研究推進部からの提起を受け授業における「学び合い」の実践を図っていく。</p> <p>・児童の学力実態の把握と分析に基づき、課題を明確にした学習活動の充実を図る。</p> <p>・家庭との連携を密にし、学習習慣の確立に向けて取り組む。</p>	<p>具体的方策</p> <p>・丹後学園の研究主題である「子どものコミュニケーション能力を育成する」～生徒指導の三機能(自己決定・自己存在感・共感的な人間関係)を生かした取組の充実～と併せて、本校の研究推進部からの提起を受け授業における「学び合い」の実践を図っていく。</p> <p>・児童の学力実態の把握と分析に基づき、課題を明確にした学習活動の充実を図る。</p> <p>・家庭との連携を密にし、学習習慣の確立に向けて取り組む。</p>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○新学習指導要領の理念や育成すべき資質・能力について共通確認し、単元の指導構想のための単元シートを導入し研究を進めることができた。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実現による授業改善につなげて、点の知識をつないで、高次の深い学習につなげて少人数指導を実施して、効果を上げることができたが、少人数指導ができていない学級によっては課題が残った。</p> <p>○異年齢での学級掃除に取り組み、児童の頑張りがあいつつ、生活面での良さを玄関ホールでのホワイトボードに毎日掲示することで、相互理解が図られ規範意識が高まってきている。</p> <p>○不登校傾向の児童については、ほぼ毎日登校し、大幅に改善を図ることができてきている。中学校とも連携をして、受け入れ態勢についても準備している。</p> <p>○いじめアンケート以外に教育相談部を中心に年3回のアンケートと面談を実施していき防ぎを行った。</p>	

健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・全校的な体力にかかわる取組の充実と積極的な児童への指導を行い、学校を休まない強い体をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全年体育育の時間にサーキットトレーニングを継続して行う。 ・基本的な生活習慣の確立に向けた取組を、家庭と連携しながら進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通じて学校を休む児童が少なく、元気に学校に来ることができている。 △家庭環境の厳しさから、基本的な生活習慣の確立に向けて十分に指導ができなかった児童がいる。 ケース会議等で、引き続き改善に向けて努力をしていく。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの安全(生活・交通・災害) ※安心安全な学校生活ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校時のココカーの運行や、学校支援ボランティアとの連携により安全な登下校につなげる。 ・登下校のみならず、校外のきまわりを守り交通安全を含め安全指導の徹底を図る。 ・校内の危険箇所点検を行い、適宜、修繕などをすることとで教育環境を整える。 ・児童の欠席があった場合、理由の確認と担任からの働きかけを確実にを行い、連続欠席とならないように、いろいろな機会を通じて児童にも保護者にも呼び掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校時に『にここにカー』(巡回指導車)による巡回を1年通して行ってきたことによりタイムリーな指導ができ、交通事故の発生を抑えることができた。 ○校外のきまわりを守ることを意識させることで、生徒指導に関わる問題事象もほとんどなくなってきた。 ○児童の欠席は、いじめや不登校の予兆と考えて、理由について確実に把握するようにしてきた。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・丁寧で分かりやすい情報発信を行う。 ・PTA・地域の関係諸機関等と連携した取組を強化する。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的な活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り、学級通信、ホームページ等により学校の取組や様子を積極的に発信する。 ・新設校なのでPTA行事の見直しを行い無理なく実施可能な行事や取組を行っていく。また関係諸機関等との連絡を密に取り、協力を得る。 ・地域の人材、学校支援ボランティア等、外部人材の積極的活用を図り、教育活動の活性化と充実を図る。 ・児童の欠席があった場合、理由の確認と担任からの働きかけを確実に、連続欠席とならないようにする。 ・全員登校の日教が多くなるよう、いろいろな機会を通じて児童にも保護者にも呼び掛ける。 ・読み聞かせボランティア・図書館指導員により、読書への興味を高め本好きな児童を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○開校1年目の学校であるので、各行事の実施に際しては、PTAの全面的な協力を得て、実施に際しては綿密な打ち合わせと準備を行い実施した。実施後に総括をして、改善点を出し次年度に引き継ぐ内容を定めることができた。 ○図書館指導員による、ブックトークなど読書に興味を持つ取組を実施することができた。 ○児童の欠席があった場合の担任からの働きかけを確実に行ったことで、連続欠席にならない学校風土をつくることができた。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の少人数指導による効果が確認できたので、学力課題の大きい学年への少人数指導を行い学力向上に向けて学校が一つになって取り組む。 ・令和2年、3年の京都府給食研究会発表校として、学校組織を再編して令和3年の発表に向けて組織的に学校経営を行っていく。 ・再配置2年目となる丹後小学校が、安定した学校運営ができるように引き続き教職員全員で不断の努力をしていく。 		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立宇川小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>「夢と希望と創造性あふれる豊かな心をもち、未来に向けて主体的に生きる子ども」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来を展望し、未来を拓くために充実した学校生活を送る学校【児童】 ・目指す子ども像を基に、全教職員が連携を図り、責任を持つ学校【教職員】 ・保護者・地域に信頼される学校【保護者・地域】 		<p>○全国へき地研に向け、学校一体となった研究活動により、多様な人とのコミュニケーションや話し合い活動が充実し、児童の伝え合う力が高まった。△個に応じた指導や学力向上を図る取組は充実したが、授業改善と学力の定着は課題である。</p> <p>○児童同士の人間関係や思いやりは育ってきた。自己肯定感を更に高めていきたい。</p> <p>△地域や学園と連携した学習を充実させることができただが、児童に付ける資質・能力を明確にした教育活動を実施していく必要がある。</p>		<p>(1)小規模校の特性を踏まえた効率的、効果的な学校運営を行う。</p> <p>(2)小中一貫教育と本校の研究を連動させ、児童のコミュニケーション能力や主体性の育成、授業改善による学力向上を図る。</p> <p>(3)家庭と連携し、基本的な生活習慣の確立や自己肯定感を高める。</p> <p>(4)へき地・小規模校として、地域と連携した教育活動を充実させ、宇川への愛着の気持ち教育を推進する。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<p>1 「分かる・できる」授業、主体的・対話的で深い学びの授業を行い、学力向上を目指す。</p> <p>2 個に応じた指導や家庭学習、読書活動を充実させ、基礎学力を定着させる。</p>	<p>1 国語の授業研究を全学年で実施し、生徒指導の三機能を生かした授業、新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善を行い、児童の資質・能力を高める。</p> <p>2 実態把握を基に、個人カルテの活用やドリルタイム・放課後補習等、個に応じた指導を進める。学力強化月間の設定し、学習意欲の向上と家庭学習、読書活動充実の具体化を図る。</p>	<p>○国語を重点に講師招聘、全学級の授業研究会や公開授業、丹後学園の研究で学び合い、教師の授業実践力を高めた。児童アンケートでは、ほぼ全員が「わかる」「主体的に取り組んでいる」と回答した。○学力強化月間の計算チャレンジや自主学習の取組、放課後補習を全員対象にする等、基礎学力向上の取組を強化することができた。家庭学習の習慣がほぼ定着し、読書量も増加した児童が多い。</p> <p>△深い学びに繋がる授業改善を進め、個人カルテを基に更に全児童の学力向上を目指していきたい。</p>		
生徒指導	<p>1 児童自らが課題解決する実践力や自己管理能力、自己肯定感を高める。</p> <p>2 人権意識・規範意識の高揚を図り、いじめのない安定した学校生活を送らせる。</p>	<p>1 目標設定と具体化を児童が考え実践し、達成させる指導を行う。その中で振り返りや互いの良さを認め合い伝え合う場を設定する。</p> <p>2 道徳の時間や人権月間を中心に人権意識を高める取組、日常的な指導と併せていじめアンケートを実施し、児童の実態を把握しながら、年間を通じた計画的な指導を行う。</p> <p>3 生徒指導部と特別活動部が連携した月目標を設定し、児童の規範意識・実践力を高める。</p>	<p>○児童会の取組や行事等、児童が主体的に考え創る過程を大事にしなが、学年を超えて友達の良いところや感謝を伝える活動が実施できた。児童アンケートの「協力」「仲良く」「良い所を見つけた」「は昨年より良い結果で、ほぼ100%の児童が肯定的評価をしている。</p> <p>△安定した学校生活であったが、児童・保護者アンケートにも自己肯定感の低さや自分の思いを伝えることに課題が見られる。</p> <p>○「挨拶」や「廊下歩行」等、児童課題に応じた月目標を設定し、学級や児童会等、学校一体の取組ができ、徐々に改善が図られた。</p> <p>△取組がなくても、常に自分で考え判断し、正しい行動が継続できる実践力を付けたい。</p>		
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>					

健康(体育)・安全	1 体力の向上と基本的な生活習慣を確立させ、強い体をつくる。 2 安全に生活するための知識や判断力、行動力を育成する。 3 粘り強く挑戦する態度を養う。	1 全校の体力づくりや行事・運動を連動させた取組、家庭と連携した「元気貯金」等の取組を計画的に行い、体力向上と基本的な生活習慣を確立させる。 2 安全に関わる行事や学級指導、外部講師による学習等、安全に関する意識と実践力を高める取組を行う。 3 粘り強く挑戦し、継続するための手立てや指導を体育・道徳・学級指導等で行う。	○年間を通して中間マラソンや縄跳び、運動会、遠泳大会等、行事・授業・放課後練習等で全校の体力づくりや運動能力向上を図った。また年数回「げんき貯金」の取組で基本的な生活習慣の啓発を行った。 △外遊びは増えたと運動の2極化が見られ、「早寝早起き」の課題や長時間のゲーム等、気になる課題がなかなか改善しない児童もいる。 ○避難訓練、交通安全、非行防止教室等、外部講師等の協力などで、様々な機会に安全指導が実施でき、知識や意識は高まってきている。 △児童は全員「最後までやり遂げる」と答えているが、保護者のアンケート結果の評価は低い。更に意識して様々な場面で指導したい。
特別支援教育	1 教育的ニーズや個の特性に応じた指導・支援を計画的・組織的に行う。 2 障害児者理解教育を進める。	1 サポート委員会(特別支援教育部+教育相談)を中心に個別の支援計画・指導計画の下、保護者や関係機関とも連携し、定期的な懇談を持ちながら指導を進める。 2 特別支援学級児童と交流学級との学習や全校児童との交流の機会を増やす。また地域の障害のある児童や人との交流の場を設定する。	○サポート委員会が個別の指導計画に基づいた指導の成果と課題を集約し、具体的な手立てを講じた。保護者・関係機関とも計画的に懇談や連携ができ、就学指導も適切に進んだ。 △各学級の配慮の必要な児童へ、個々に手厚い支援が必要であったが、体制的にも時間的にも十分できなかつた。 ○交流学級や他の学年の児童との交流機会を多く設定し、支援学級児童の頑張りや成長が見え、理解教育が充実した。また支援学級の児童同士や他校の児童との関わりの中で、よい表情で活躍することができ、成長発達に繋がった。
特色ある学校づくり	1 へき地・小規模校及び地域の特性を生かし、児童の活躍と主体的な学びがある教育活動を進める。 2 地域のことを学び、地域への愛着と地域の未来を考え、児童を育成する。	1 学級だけでなく全校や異年齢、学園の園児・児童・生徒、地域の方等、多様な場で様々な人と関わり、コミュニケーションを図りながら、個々が活躍できる教育活動を実施する。 2 生活科や総合的な学習の時間等で、家庭や地域と連携し、地域素材・地域人材を生かした探究学習を充実する。	○コミュニケーション能力の育成を意識した取組の中で、自分から他の学年や地域の人へも積極的に対話できる児童が増えた。 ○他校や保育所との合同学習等、大きな集団の中でも自分達で計画、協力しながら、各自が責任持ってやりきり力が付いてきつつある。 △まだ声の小さい児童もいる。自信を持って自分の考えが言え、主体的に取り組みむ力を更に高めたい。 ○様々な教育活動で地域の方の協力や交流の場を多く持ち、地域学習のまとめや思いを学習発表会等の場で積極的に発信できた。 △地域との交流や人材活用を図った学習を更に取り入れたい。
次年度に向けた改善の方向性			○へき地、小規模校の特性を生かし、保幼小中一貫教育や地域連携、教育課程の工夫により、特色ある学校づくりを行う。 ・個々への丁寧な指導と授業改善、家庭や地域人材の協力で、児童の確かな学力を向上させる。 ・多様な人との関わりの中で、主体的、創造的な活動と最後までやり切らせる指導で、自信や自己肯定感を高める。 ・規範意識・入権意識を向上させ、何事も自分で考え、判断し、より良い行動や生活ができる自立の力を高める。

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立吉野小学校)

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)		
1	生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と主体的・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図る。	○重点教科の国語科を中心に主体的・対話的で深い学びの授業づくりをどの学級においても、進めることができている。 ○研修や授業研究会の場だけでなく、日常的に授業や生徒指導等の交流ができる環境づくりができた。 ○中堅教員を中心に様々な課題に気付き、学校改善に向けた意識の高揚と改善を図る取組が進められるようになってきている。 ○全ての教育活動の中で、組織的・協働的な動きづくりができた。 △「深い学び」のための授業改善と質の高い学力の育成に向けた工夫、改善を図る。 △保護者、地域、その他の関係機関との丁寧な対応や連携を更に深め、信頼される学校及び特色ある学校、開かれた学校づくりの推進を図る。	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を推進すること 2 主体的・対話的で深い学びの授業づくり(授業改善)	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を推進すること 2 主体的・対話的で深い学びの授業づくり(授業改善)	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と主体的・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図る。 2 確かな学びの力と豊かな人間性をはぐくみ、一人ひとりが大切にされる心の教育の推進を図る。 3 家庭・地域とつながり、信頼される学校・特色ある学校づくりを推進する。 4 学園の中小一貫教育を様々な取組を充実させながら、推進する。	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と主体的・判断力・表現力の育成、主体的に学びに向かう力の育成を図る。 2 確かな学びの力と豊かな人間性をはぐくみ、思いやりの心や豊かな人間性をはぐくむ「心の教育」を推進する。 3 家庭・地域、関係機関との連携を深め、信頼される学校・特色ある学校・開かれた学校づくりを通し、「生きる力」の育成に努める。 4 就学前から中学校卒業までを見通した弥栄学園小中一貫教育の推進及び充実を図る。 5 中堅教員の指導力、対応力の向上を図り、人材育成を行う。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)			
教育課程 学習指導	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりの推進 2 主体的・対話的で深い学びの授業づくりの実践(授業改善)	1 生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を一体化させた指導を推進する。 (1)授業をデザイン化し、指導と評価を一体化した授業づくりを推進する。 (2)授業づくりを通して学習意欲の向上を図るとともに、主体的に自主勉強に取り組む指導と環境づくりを進める。 (3)学園の取組とも連動させながら、学級や児童の学力課題克服のための取組を推進する 2 主体的・対話的で深い学びの授業づくりの実践(授業改善)を積み上げる。 (1)新学習指導要領を意識した移行期の教育課程を編成し、実践する。 (2)小中一貫モデルカリキュラムを活用し、各教科等の指導計画を改善し、主体的・対話的で深い学びの授業改善を推進する。 (3)校内や学園の授業研究会や研修、出前講座、その他関連の研修を通して、教員の指導力向上を図り、児童の学力の充実・向上につなげる。	○各学年とも、生徒指導の3機能を生かした授業づくりと学級経営を進めることができ、学習意欲や落ち着いて学習に向かう力を高めることができている。 ○学園の取組と連動させながら、自主勉強の取組を進め、家庭学習の充実や主体的な学びへつなげることもできた。 ○移行期の内容を教育課程に位置付け、基礎・基本、内容や量・スピードにも対応できる力を育成するための授業づくりと「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を進め、学力の定着や向上につなげることができた。 ○教員の指導力や資質の向上を図るため、校内、学園等の研修を充実させ、学び合う教員を育成し、授業改善と児童の学力向上につなげることもできた。 △安定した学級経営や授業改善を通し、実践を進めたが評価テストでの高得点につながらない課題がある。 △高位層や中間層の更なる伸びにつながりにくかった。			
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として						

生徒指導	<p>1 生徒指導の3機能を生かした学級経営を行ない、自尊感情の醸成を目指す。</p> <p>2 望ましい集団活動や多様な体験活動を充実させ、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>3 非行防止教室、法やルールの未然防止や規範意識の高揚を図る。</p> <p>4 児童の内面理解に努め、児童、保護者との信頼関係を構築し、取組や対応等を丁寧にもたまた組織的に、そして、迅速に進める。</p>	<p>1 生徒指導の3機能を生かした学級経営実践を行ない、自尊感情の醸成を目指す。</p> <p>2 望ましい集団活動や多様な体験活動を充実させ、好ましい人間関係やコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <p>3 非行防止教室、法やルールの未然防止や規範意識の高揚を図る。</p> <p>4 児童の内面理解に努め、児童、保護者との信頼関係を構築し、取組や対応等を丁寧にもたまた組織的に、そして、迅速に進める。</p>	<p>○ 生徒指導の3機能を生かした学級経営や異年齢集団活動を通して、高学年のリーダー性の育成と良好な人間関係づくりを進めたこと。</p> <p>○ 各学級や学校全体の安定につながったこと。</p> <p>○ 非行防止教室や様々な事象の教材化、家庭との連携等を通して、規範意識の高揚やいじめ、不登校の未然防止、早期の発見、対応ができています。</p> <p>△ 児童一人一人の内面理解や状況把握に努め、家庭との連携を強化しながら適切な指導を継続していく。</p>
健康(体育)・安全	<p>1 食育、健康な心と体づくりの取組を推進する。</p> <p>2 危機管理意識の高揚を図り、学校等の事故の未然防止に努める。</p>	<p>1 食育の推進と、年間を通して朝の体力づくり(マラソン、縄跳び)、毎学期の生活点検による生活習慣づくりを進める。</p> <p>2 危機管理意識を高め、事故等の未然防止に努める。</p> <p>3 校内安全点検を実施し安全な施設管理を行うとともに、登下校等の安全指導を徹底し、PTAや地域のボランティア等と連携した取組を進める。</p>	<p>○ 年間を通して体力づくりの取組を組織的に進め、基礎的な体力を身に付け、大会等で成果を発揮することができた。</p> <p>○ 家庭と連携して毎学期生活点検を実施し、学期始めの生活習慣づくりにつながった。</p> <p>○ 安全等に関する取組を保護者や地域ボランティアと連携して行い、安全な登下校、交通事故0や防止につながっている。</p>
特別支援教育	<p>1 特別な教育支援が必要な児童の課題、障害に応じた支援や指導方法の改善、充実を図る。</p> <p>2 家庭や関係機関との連携を図る。</p>	<p>1 支援が必要な児童の教育支援計画、個別の指導計画等を整備する。</p> <p>2 障害のある人を正しく理解するための理解教育を計画的に進める。また、特別支援教育に係る研修を行い、指導に活かす。</p> <p>3 本人や保護者のニーズに合わせた教育支援に向けた懇談を丁寧に行う。</p> <p>4 個々の合理的配慮を明確にし、個に応じた指導の推進及び充実と関係機関との連携を図る。</p>	<p>○ 家庭と連携して、個別の支援に係る資料の整備を行い、障害や特性に応じて原簿や保護者のニーズに合わせた支援、取組が推進できた。</p> <p>○ 定期的な懇談を実施し、合理的配慮を明確にした個別の指導や特性等に応じた教育支援や就学指導を進めることができた。</p> <p>△ 更に実態に応じたきめ細かな指導の充実と家庭との連携を丁寧、組織的、継続的に行う。</p>
特色ある学校づくり	<p>家庭、地域との連携を深め、地域の特色を生かした学校づくりを推進する。</p>	<p>1 伝統や校風を大切に、本校の特色である異年齢集団活動の充実と創意工夫を生かした教育活動を展開する。</p> <p>2 郷土への愛着と誇りをはぐくむために保護者や地域の人材等を積極的に活用し、連携・協働による教育活動を推進する。</p>	<p>○ 伝統や校風を大切にしながら、組織的、継続的に、地域との連携をもとに特色ある学校づくりを進めることができた。</p> <p>○ 保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。</p> <p>△ 更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>1 校内研修を充実させて指導力を高め、「基礎・基本の定着に向けた授業」と「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の推進と学力の向上を図る。</p> <p>2 教育環境の充実を図るとともに生徒指導の3機能を生かした学級経営と授業づくりを推進し、児童一人一人の内面理解に努め、望ましい集団活動を通して、郷土を愛し、豊かたくたくましい心をはぐくむ教育の充実を図る。</p> <p>3 弥栄学園保幼小中一貫教育の方針、年間計画に基づいた学園経営を行い、園小、小中、小中の連携及び一貫した取組の実践と評価を重ね、円滑な接続を図る。</p> <p>4 家庭・地域との信頼関係を構築し、連携を深めながら、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりを推進する。</p>	<p>○ 伝統や校風を大切にしながら、組織的、継続的に、地域との連携をもとに特色ある学校づくりを進めることができた。</p> <p>○ 保護者や地域の人材等を活用して、学習や体験活動を充実させることができた。</p> <p>△ 更に地域の人材を活用し、特色ある学校、地域社会に開かれた学校づくりにつなげる。</p>	

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 (京丹後市立弥栄小学校)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>「ふるさとを愛し、主体的に学び、心豊かで、たくましく生き抜く児童生徒の育成」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識と技を磨き、活用する子 ・自他の良さを知り、共に伸びる子 ・心身をきたえ、何事もやりぬく子 	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○複数体制指導、個に応じた指導を進めることで、落ち着いて学習に臨ませることができ、学習規律も身に付けさせることができた。</p> <p>○いじめの未然防止や不登校傾向等、課題となる状況に対し組織的に取り組み、早期発見・改善に導くことができた。</p> <p>△学力定着には課題があり、活用力、書く力に弱さがある。</p> <p>△自らの課題に気づき、解決していくという意欲や判断力に課題が見られる。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>1 学級経営を基盤とした授業づくり 2 新学習指導要領の趣旨に沿った授業改善 3 人権教育・道徳教育の充実 4 小中一貫教育の推進 5 信頼される学校づくり</p>
評価項目	重点目標	成果と課題 (自己評価)
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>1 学力実態と課題に応じて個々に応じた指導の充実を努める 2 新学習指導要領の趣旨に沿った教育課程経営を行い主体的・対話的で深い学びを重視した授業改善を進める。 3 学園課題・学校課題克服に向けた小中一貫教育の推進</p>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○算数は複数体制指導で、わかる授業づくり・個に応じた指導を進め、学力の定着を図ることができた。国語の研究授業を行うことで主体的・対話的な深い学びについて指導力向上が図れた。また、学園課題に向けて1年・6年の授業公開をし、園小接続、小中接続の指導の系統性について連携を進めることができた。課題であった書く力の向上には成果が見られた。</p> <p>△弥栄学園の課題でもあるが、発達段階に応じた指導を更に工夫改善し、系統的に行っていく必要がある。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>1 好ましい人間関係を築く力やコミュニケーション能力を育成する。 2 規範意識を醸成する。 3 組織的にいじめの未然防止、早期発見・早期対応を進める。</p>	<p>○よりよい学校生活を築けるよう、児童会本部の提案のもと、各学年が学級目標を設定して自治的な動きができてきている。 ○約束やきまりを守り、互いに思いやりをもつて過ごせるよう、生徒指導部と特別活動部が連携・連携して取組を進めることで、児童の意識が変革した。 ○いじめ対策委員会や生徒指導部で児童の気になる状況に対しタイムリーかつ組織的に対応することができた。 △更に一層、児童と教職員との信頼関係を深め、悩みごとがあれば相談できる関係性を深めていく必要がある。</p>
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>		

健康（体育）・安全	<p>1 体を動かすことを楽しみ、遊びや運動の仕方を工夫する力をつける。</p> <p>2 生活習慣の改善</p> <p>3 生活安全・交通安全・災害安全の指導を推進し、安全な生活を営む判断力と実践力を養う。</p>	<p>1 児童の体力・運動能力実態を把握し、体育指導・体力向上の取組を充実させる。</p> <p>2 家庭と連携した生活習慣改善の取組</p> <p>3 児童自ら災害や事件・事故等から、安全を守るための能力を身に付ける安全教育を保護者・地域と連携して行う。（地域安全ボランティアとの連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全教育指導（便りの発行、朝会指導） ・交通安全教室、防犯訓練、引き渡し訓練 ・ここにここカーパトロール、見守り指導等 	<p>○マラソンやなわとびなど、体力づくりの取組を行い、市小学校駅伝競走大会では2年連続入賞ができた。</p> <p>△年度末の体力テスト結果分析では、全学年柔軟性と一部の学年を除いて腹筋・背筋力に課題が見られた。怪我の多さとも関係していると考えられ、授業の工夫改善と家庭との連携が必要である。</p> <p>○安全に関する取組を定期的に行い、地域連携を進めるとともに児童の意識を啓発することができた。</p> <p>△広域の校区で安全に登下校ができたのは、多くの地域ボランティアのおかげであるが、下校時には、子どもたちの気も緩んで危険な状況も見られた。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 学校からの発信の充実</p> <p>2 地域学習、丹後学を通して、児童が人とつながり、ふるさとを愛する心や感謝の心を育む。</p> <p>3 地域人材の活用</p>	<p>1 学校や学園の取組・様子を積極的に発信し、理解と協力を得る。（学校便り全戸配布・学園便り・ホームページ）</p> <p>2 丹後学をはじめ、広い校区の地域教材を積極的に取り入れ、地域から学ぶ。</p> <p>3 学校支援ボランティアを活用し、学習効果をあげるとともに地域とのつながりを深める。</p>	<p>○定期的なホームページ更新、地域全戸への学校だより配布で広報することができた。</p> <p>○地域教材や地域人材を活用した生活科、社会科、総合的な学習の時間（丹後学）の授業を行い、地域から学ぶとともに地域への愛着を深めた。</p>
特別支援教育	<p>1 障害や特性を踏まえた個別に応じた指導・支援を充実させる。</p>	<p>1 配慮を要する児童への指導支援を学校体制で行う。</p> <p>2 研修（特性把握、合理的配慮・自立活動等指導・支援）を実施し、個別の指導計画・個別の教育支援計画に基づく指導・支援を充実させる。</p>	<p>○個別の教育支援計画の整備し、家庭と共通理解を図り、指導支援を行った。</p> <p>○外部と連携した指導支援の検討・充実を図ることができた。（カウンセラー、学びアドバイザー、臨床心理士等）</p> <p>△より一層ユニバーサルな視点で教育活動を進めていく必要がある。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>① A部会（学力充実・授業研究）・B部会（自主性・規範意識の向上）・C部会（配慮児童・家庭への指導支援）を中心に学校課題改善に向けた動きを更に推進する。</p> <p>② 信頼される学校づくりに向けた情報発信、迅速・誠実・丁寧な対応を行うとともに、危機管理意識を全教職員がしっかりと、日々の教育活動にあたる。</p> <p>③ 働きがいがあり、かつ健康的な職場づくりを進める。</p>		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立久美浜小学校]

<p>学校経営方針(中期経営目標)</p> <p>学校教育目標の達成に向け、校訓「一生懸命」を意識した教育活動を推進する。</p> <p>1 質の高い学力をつけるための学習指導及び学習環境整備を進める。</p> <p>2 質の高い学力を培う基盤として、児童同士及び教職員と児童との好ましい人間関係の構築を一層進める。</p> <p>3 中学校卒業時の生徒像を常に意識し、学園教職員として互いに理解し合い、学園経営と学校経営の連携を図りながら進める。</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○落ち着いた学習環境づくりを基本とし、学習内容の基礎基本の定着を図ることができた。また、「話し合い活動」の系統表を作成するなど、学年に応じて指導することができた。</p> <p>○全員出席の日が増加するなど、健康な心と体につながることもできた。また、学校に来にくい児童についても、家庭との連携を丁寧に進める中で、改善傾向である。</p> <p>△落ち着いた学級経営を継続し、基礎基本の確実な定着と思考力・表現力等の向上を図る。</p> <p>△上記課題の克服を目指すために、新学習指導要領の目指す授業改善や基盤となる学級経営力等教職員自らの力量を更に高めていく必要がある。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>「すべては久美小の子どもの成長のために～子どもにも力を付けることを強く意識する～」</p> <p>1 教育活動のキーワード 『チーム久美小 「尊重」 「協働」 「サポート」』</p> <p>2 そのために大事にすること</p> <p>(1) 目標・目的を明確にした上で具体的な方策を考え、評価を踏まえた具体的な改善策の検討を重視する。</p> <p>(2) 肯定的評価や指導のあり方等、教育活動を進める指導観について学び合い、教職員自身がコミュニケーションを大切にしていく。</p> <p>(3) 児童一人一人の力を伸ばすための学習指導力や学級経営力を高める努力をする。</p>
<p>評価項目</p>	<p>重点目標</p> <p>1 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、見える学力としての12月のDRITの結果(標準得点)を昨年度よりも学級平均の向上並びに個人別に伸ばす児童を増やすことを目指す。</p> <p>2 話し合い活動を含めた、学び合いのスキルを高め、総合的な学力を一步高める。</p>	<p>具 体 的 方 策</p> <p>1 「分かる」考える」授業づくりをICTの活用等も含め工夫して進めるとともに、ドリルタイムや家庭学習では習熟を目指した「量の確保」を進める。</p> <p>2 一斉による指導のほか、個別に配慮しながらの指導も組み合わせて授業を構想していく。</p> <p>3 単元全体を見通し、「読む・書く」の活動を適切に位置付け、考えたり表現したりする力を伸ばす。</p> <p>4 「話し合い活動」の系統表をもとに指導を継続し、「対話」に係る力を積み上げる。</p>
<p>本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>	<p>生徒指導</p> <p>1 気持ちよく生活できるための必要なマナーやルールを考え、行動できる力、相手を思いやる心の育成を進めるための授業や取組を進める。</p> <p>2 「いじめ」「不登校」等の諸課題に対し、未然防止に向け日常的な指導、相談活動をさらに充実させる。</p>	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○12月実施のDRITの結果、国語・算数ともにすべての学級で全国平均を上回った。標準得点による昨年度との比較においては、国語では2・3・6年、算数では3・6年を上回り、5年国語・2年算数はほぼ同程度となった。また、個別に見ても、51%が上回り、18%が昨年と同程度となり、約70%が昨年と同年以上の力を付けることができた。</p> <p>○多くの学年で、電子黒板やタブレット等による視覚支援の工夫を取り入れた授業づくり等を行うことができた。</p> <p>△今後も落ち着いた学級経営を継続するとともに、主体的に学び合う力を向上させていく。</p> <p>○6年生を中心とした児童会活動や各学級活動により、つながりを広めたり深めたりする取組が今年も進められた。学級内での人間関係による問題を常に解決しながら日々の成長を促すことができた。</p> <p>○「いじめ」については、年3回のアンケートを中心に常に様子の変化を見守り、日々解決していくことができた。</p> <p>○昨年度は3名の児童が登校のしにくさがあったが、本年度は1名と減少し、改善傾向にある。</p> <p>△児童の衝動性による問題が継続しているため、保護者連携を含め、適切な指導や環境づくりを行う必要がある。</p>

健康（体 育）・安全	1 楽しく体を動かす習慣を身に 付けさせるとともに、様々な取 り組みを通じて我慢強く活動 する心を育てる。 2 安全な生活を営むための対応 力を育成する。	1 日常生活で当たり前のことが当たり前にできる子ども に育てるために、基本的な生活習慣や学校生活、家庭 学習等、1日のルーティンの確立を目指して、粘り強 い声かけと保護者連携を進める。 2 交通ルールの順守や不審者への対応、日々の安全な生 活等を進めるために、事例を教材化し情報を正しく判 断できるようにする。	○学校内での基本的な生活習慣づくりについて、「久美小当 たり前ルール」から重点的にテーマや期間を設定して、 全学年による意識化を図ることができた。家庭でも、が んばり週間等の取組を通して、家族一緒に前向きに取り 組んでいた等について活動や家庭での指導のおかげで登 下校中や自転車による交通事故はなかった。 △家庭での生活リズム（睡眠時間・メディア視聴・SNS・ 家庭学習等）の改善に向けての継続的な取組が必要であ る。
研修（資質 向上の取 組）	1 新学習指導要領への対応とし ての「主体的・対話的で深い学 び」の実現に向けた授業改善と 本校重点課題である「ことばの 力の育成（話し合い活動の充 実）」を関連付け、解決につな がる校内研究・研修の充実を図 る。	1 新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い 学び」が実現する授業改善に向けて、具体的な子ども の姿とそれに向かう指導方法の研修を進める。 2 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取 り組む態度」の観点による評価のあり方の研修を進め る。 3 「話し合い活動を通してことばの力の育成と主体的で 対話的な学び」について、実践しながら研究を進める。	○久美浜学園の取組と運動させるとともに、校内でも「話 し合い活動」を中心とした指導のあり方を学び合った。 さらに、スキルのな力と話し合わせる視点・内容の大切 さも研究することができた。 ○学習過程におけるICT活用の効果的な位置付けや、ノー ト指導や板書との使い分け等、指導のあり方を互いに学 び合うことができた。 △これまでの「話し合い活動」の研究を土台にして、主体 的な学びやICT活用についての授業展開を模索していく 必要がある。
特色ある 学校づく り	1 保幼小中10年間を見通し、中 学校卒業時の生徒のあるべき 姿を明確にしながら教育活動 を推進する。 2 地域に学び、地域とともに歩む 学校にする。	1 昨年度のシステムや方向性を継続し内容充実を図る。 特に、「理解と対話」のキーワードのもと、学園教職員 で常に交流しながら、「中学校卒業時の生徒のあるべき 姿」を検討し、本校の教育活動において常に意識して いく。 2 教科や総合的な学習の時間等において、様々な地域の 資源から学ぶ。また、様々な機会をとらえ地域の方々 との交流や学びを大切にす。	○「理解と対話」を重点として、特に保小連携において児 童・園児の姿を中心に取り組んだ。また、6年生と中学 生の姿や現状を交流・協議する中で、学力充実に向けた 学園共通する取組（事後交流・学習課題「中学校への道」・ 小中学生の意識の差異等）の焦点化や具体化を進めるこ とができた。 △教科や総合的な学習の時間において、地域の資源（商店・ 自然・ゲストティチャー・伝統等）から、多くを学ぶこ とができた。一方で、準備や展開に係る時間確保が難し く、今後も行事の精選と共に、地域から学ぶ視点を大事 にしている。
次年度に向け 改善の方向性	1 これまでの久美浜学園全体の10年間を見通した教育活動の積み重ねを土台として、小中間の様々な教育課程上のギャップについて、より具体的に焦 点化した取組を通して一歩ずつ改善していく。 2 本校の重点課題である「学力向上」に向けて、現在の重点研究や学力向上の取組を継続するとともに、①肯定的評価を基にした生徒指導の3機能を生 かした学級づくり、②学習内容を確実に定着させる授業づくり、③「基礎基本の徹底」と「主体的な学び合い」のある授業づくり、④ICT（電子黒板・ タブレット等）を効果的に活用した授業づくりを進めていく。 3 学校の取組全体や会議設定の工夫等を通して、教職員の授業準備や研修の時間確保を更に進め、そのことを通して授業実践や学級経営力の向上を進め る。	1 新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い 学び」が実現する授業改善に向けて、具体的な子ども の姿とそれに向かう指導方法の研修を進める。 2 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取 り組む態度」の観点による評価のあり方の研修を進め る。 3 「話し合い活動を通してことばの力の育成と主体的で 対話的な学び」について、実践しながら研究を進める。	○「理解と対話」を重点として、特に保小連携において児 童・園児の姿を中心に取り組んだ。また、6年生と中学 生の姿や現状を交流・協議する中で、学力充実に向けた 学園共通する取組（事後交流・学習課題「中学校への道」・ 小中学生の意識の差異等）の焦点化や具体化を進めるこ とができた。 △教科や総合的な学習の時間において、地域の資源（商店・ 自然・ゲストティチャー・伝統等）から、多くを学ぶこ とができた。一方で、準備や展開に係る時間確保が難し く、今後も行事の精選と共に、地域から学ぶ視点を大事 にしている。

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立高龍小学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>意欲的に生活・学習に取り組む子どもたちの育成 — 子どもの実態や系統性を踏まえた指導 —</p> <p>1 基礎・基本の徹底 2 言語活動の充実(授業づくり) 3 家庭学習時間の確保</p>		<p>素直に反応し、取組を進めようとした。 △規範意識を高める必要がある。 △「わかる授業」を通して国算の基礎・基本の力を身に付ける取組を進める必要がある。 △児童の実態を把握し、必要な支援を行い、一人一人の自己肯定感を高める必要がある。</p>		<p>「自分なりの考えを持つことができる児童の育成」 1 自分の考えを表現することができる。 2 自分や友だちのよいところを見つけることができる。 3 いろいろなことに挑戦することができる。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
<p>教育課程 学習指導</p>	<p>1 ねらいが明確で「わかる」「できる」授業を進め、知識・技能の習得を図る。 2 全校体制で個に応じた指導・学力補完体制を確立し、基礎・基本の定着を図る。 3 身に付けた知識・技能を用いて思考・判断・表現する力を育成する授業を進める。</p>	<p>1 研究推進部を中心に、ねらいが明確で「わかる授業」「できる授業」の算数科の研究授業・公開授業を行い、知識・技能の習得を図り、学び合う。 2 学力補完・家庭学習等により、授業だけでなく、家庭と連携し、国算の基礎・基本の定着と個に応じた指導・支援を進める。 3 児童が主体的に学習に取り組むことができ、多様な学習形態を取り入れた単元・授業のデザイン及び環境づくりを行う。</p>	<p>○一人年1回の授業公開・研究授業に取り組み、導入を工夫し、児童が主体的・対話的に学ぶ授業を行うことができた。 ○授業のユニバーサルデザイン化をすすめだれもが「わかる」「できる」授業研究を進めることができた。 ○保護者アンケートで約97%が、児童に意欲的に学習する場が設定できているとの回答が得られた。 ○意欲的に学習する場である漢字検定に71名(49%)が挑戦することができた。 ○久美浜高校と連携しプラスワンスタディに取り組みすることができた。 △家庭と連携し基礎・基本の定着を図らなければならない。</p>		
<p>生徒指導</p>	<p>1 よさを認め合い、伝え合える活動を積極的に取り入れる。 2 発達段階に応じた「思いやり」の心を育成する指導を進める。</p>	<p>1 教師が児童のよさを、また児童同士がお互いのよさを通信や学級活動、多様な異年齢集団活動の中で、計画的に伝えることで、明るく積極的な態度を促進させる。また、いじめについて、未然防止に重点を置き、規範意識の醸成を図る。 2 「特別な教科 道徳」を中心に、道徳教育・人権教育を推進する。特に「主として人とのかかわりに関すること【親切、思いやり】を重視する。</p>	<p>○生徒指導部・特別活動部が連携し、全校で「時間を守る」「話を聞く」等の月日目標に取り組み、児童が相互によさを評価したり、全校集会等で評価したりすることができた。 ○6年生をリーダーとして、運動会・チーム遊び・大縄大会に取り組み、友達の良い所を見つ取る取組を行うことができた。 ○保護者アンケートで約97%が、児童に「思いやり」の心が育成できているとの回答が得られた。 ○11月の人権月間に、「道徳」の授業を中心に人権教育に関わる授業公開(地域へも公開)を行い、児童に親切・思いやりについて考えさせることができた。</p>		
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として					

健康（体育）・安全	<p>1 全校的な体力にかかわる取組の充実により、体力向上を図ったり、基本的な生活習慣を身に付けさせたりして、強い心と体を作る。</p> <p>2 困難なことにも粘り強く、調整しながら挑戦していき、調整する態度を育成する。</p>	<p>1 期間を決め、体力づくりの取組を図る。体育の授業と連携することで、体力の向上を図ったり、PTAと連携して基本的な生活習慣の確立を目指したりして、強い心と体を作る。</p> <p>2 個々の目指す目標を達成段階に応じて明確にし、特に「特別な教科道徳」を中心に「主として自分自身に關する事【希望、努力と強い意志】」について指導し、粘り強く、調整しながら挑戦する態度を高める。</p>	<p>○基本的な生活習慣の取組と合わせて、メディアコメントロールについて指導することができた。その取組を京都府学校保健会で発表することができた。</p> <p>○天候不順の中、地域の山「高龍寺ヶ岳」に4・5・6年生で協力し、登山することができた。</p> <p>○絵画の取組では、粘り強く取り組み、全国教育美術展で21名の入賞者を出すことができた。</p> <p>△生活習慣が身に付いていない児童に対して、今後とも家庭と連携して取組を進めなければならない。</p>
特別支援教育	<p>1 学校生活で支援を必要とする児童へのきめ細かな支援を行う。</p>	<p>1 支援部会を中心に支援を必要とする児童を的確に把握し、具体的な支援の手立てを明確にし、担任と連携した指導を進める。</p> <p>2 保護者との懇談を実施し、個々への合理的配慮を明確にする。個々の個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成する。</p>	<p>○教育支援部会に、一人一人のニーズに合わせた指導方法を検討したり、見直したりすることができた。SC・SSW・臨床心理士・巡回教育相談を活用し、児童の指導に生かすことができた。</p> <p>○年間を通して保護者と懇談することができた。保護者の願いを取り入れた個別の指導計画・教育支援計画を作成することができた。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 丁寧で分かりやすい双方向の情報発信と積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 PTA・地域の関係機関等との取組により連携を強化する。</p>	<p>1 学校だよりや学級・学年通信、ホームページ等で、学校の様子を分かりやすく発信したり、保護者の意見も載せたりして、双方向の発信を意識するとともに、積極的な学校公開を進める。</p> <p>2 PTAとの積極的な連携を進めるとともに、地域と一体となった取組を計画的に実施する。</p>	<p>○6月に学校公開日を設定し、保護者地域住民に広報することができた。また、授業参観・学校行事のアンケート結果のまとめを発行し、学校の方針の理解・保護者との連携が一層進んだ。</p> <p>○ホームページの来訪者が一日約200件あり、1月27日現在235,986のカウントとなっている。</p> <p>○稲作・読み聞かせ・書初め・スキーマ・ミシン等の学習支援ボランティア、ゲストティーチャーを活用し、地域と一体となった学習を行うことができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>久美匠学園の教育目標・目指す子ども像を基に学校経営を行ってきた。今後、より児童の実態と合わせた短期の課題設定・達成目標を設定し、更に成果の見える取組を行う。</p> <p>1 個に応じた指導と一斉指導の充実を図り、規範意識を醸成し、誰もが安心して学習に参加できる環境を創り上げる。</p> <p>2 「算数科の授業研究・公開授業等を行い、互いに授業を見合いながら、児童が主体的・対話的で深い学びができる授業を行い、誰もが「わかる」「できる」授業研究を進める。</p> <p>3 ドリルタイムの充実、放課後補習・学期末・学年末補習等に取り組み、基礎・基本の力を身に付ける。</p> <p>4 児童に自分なりの考えを持って表現できる力を身に付けさせるとともに、教科の基礎・基本を身に付けさせ、見える学力の充実を図る。また、読書の量と質を高め、児童の語彙力を高める。</p> <p>5 困難なことにも粘り強く、調整しながら挑戦する態度を育成し、学力の安定を図る。</p>		

令和元年度 学校評価自己評価報告

学校名 〔京丹後市立かぶと山小学校〕

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>久美浜学園教育目標 ふるさとを愛し、意欲的に学び、やさしい心をもち、根気強く努力する子どもの育成</p> <p>めざす児童像 (知)意欲的に質の高い学力を身につけようとする子 (徳)自ら正しく判断、行動し、豊かな心をもつ子 (体)心身を鍛え、粘り強く最後まで協力して取り組む子</p>	<p>児童理解に努め、教育相談部を中心に組織的に動き、体調不良による欠席が少なくなった。 ○配慮を要する児童に対する手立てを丁寧に行うことができ た。 △学習規律の徹底、最後までやりきらせる指導に弱さがある。 △ルールやきまりを守らないマイナスの方向に流れることが あり、守りきらせることができなかつた。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>(1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成</p> <p>(2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力を充実 させる学習活動の推進</p> <p>(3) 家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>(1) 居心地のよい学校 安心と安定のある学級経営の充実 望ましい人間関係を築く力の育成</p> <p>(2) 学力向上を図る学校 基礎基本の定着、思考・表現・判断力を充実 させる学習活動の推進</p> <p>(3) 家庭・地域にひらかれ、信頼ある学校 家庭や地域と協働する学校づくりの推進</p>
<p>評価項目</p> <p>教育課程 学習指導</p>	<p>重点目標</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」の実 現を意識した授業改善を行う。</p> <p>○児童一人一人に基礎・基本を定着さ せ、学び合い活動を深める。</p>	<p>具 体 的 方 策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やってみよう・できた」を実感させる授業を展開し、学ぶ 意欲と根気強く努力する力を向上させる。 ・言語活動の充実を図るため、話す・聞く・書く活動を取り 入れながら自分の考えを伝え、学び合いのよさを実感させ る。 ・単元構想をもち、どんな力をつけるのか、各時間のつなが りを意識して授業を行う。 ・学習規律の確立を図る。 ・学習内容の習熟のため、家庭との連携を深め、家庭学習を 充実させる。 	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○授業研を全学級実施し、事前事後研究の充実により、 主体的・対話的で深い学びについてどのように授業 を構想するかポイントを絞って実践・検証が行えた。 ○児童同士の交流、教師との対話により理解を深めら れるように、何を理解させるのかを明らかにして授 業展開に組み入れた。 △基礎基本の問題について、時間内に多くの問題を解 くスピードについて改善が必要である。 △家庭学習では、進んで取り組み組めない実態がある。一 斉の指導と個別の支援が引き続き指導が必要であ る。</p>
<p>生徒指導</p>	<p>重点目標</p> <p>○安心と安定感のある学級経営の充実 を図る。</p> <p>○規範意識を高め、基本的生活習慣を 確立する。</p>	<p>具 体 的 方 策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の3機能を活かした学級経営の推進により、望ま しい人間関係を育成する。 ・友達とのトラブルを解消する取組を通して、自己と他者の 折り合いのつけ方を学びさせる。 ・日々の肯定的評価を積み重ね、自己肯定感を高めるとも に、お互いの良さや頑張りを認め合える集団づくりを進め る。 ・児童理解に努め、個に応じた指導を行う。個と集団との関 わりの中で、認め合い、成長できるようにする。 ・ルールやきまりの意味を理解させ、全員がルールを守るこ とを大切にす。 	<p>成果と課題 (自己評価)</p> <p>○肯定的な声掛けに心がけ、お互いの良さを見つける ように進めることができた。 ○学級全員で取り組むことの良さや、勝負だけではな い取組過程での値打ちを認めることにより、自分の 成長や集団の成長について児童が実感できることを 積み重ねた。 ○自分の思いを伝え、相手の気持ちも理解しようとし る中で学級集団も落ち着いている。 △不登校の児童に対して、教育相談部を中心に対応し た。不登校未然防止として必要なことを分析する。 △感情に任せ、自己中心的な言動があり、その都度指 導した。 見つけた時が指導の機会ととらえ指導を継続する。</p>
本市の小中一貫教育の諸計画及び各学園の専攻等を基盤として			

健康（体 育）・安全	○規則正しい生活ができ、健康で安全な生活を送ることができる児童を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の体力づくり（マラソン、縄跳び）を計画的に実施する。 ・家庭と連携しながら、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を進める。 ・登下校の安全に対して、安全ボランティアの方々や連携した取組を進める。（付添い登下校、にこにこカーによる見守り、毎月の登校指導等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝マラソンを実施し、取組期間中は一生懸命取り組みることができた。 ○長期休業明けに生活リズムを整える取組を行い、学校の生活リズムに戻せるように指導した。 ○学園の取組として「メディアアイコントロール」の指導を行った。 △登下校の安全については、ボランティアの方々や連携してきたが、安全という点では、歩き方など課題として残った。
特別支援教育	○配慮を要する児童を中心に、すべての児童に対して合理的な配慮を心がけ、適切な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級在籍児童にとどまらず、各通常学級に在籍する配慮を必要とする児童への支援の在り方について研修を深める。 ・スクールカウンセラーやまなび生活アドバイザー、市臨床心理士と連携し、配慮を要する児童への適切・有効な支援の仕方を探る。また、必要に応じて保護者への啓発を進めていく。 ・個に応じた指導について、保護者と方向性を確認しながら個別的教育支援計画を作成し、指導に活かす。 ・保護者と今後の進路についても確認し、適切な就学指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○配慮を要する児童の交流を丁寧に行い、教職員間で児童理解を進めることができた。 ○スクールカウンセラー、学び生活アドバイザー、市の臨床心理士と連携し、児童理解や対応について助言を受け適切な支援が行えた。 ○保護者との面談を重ねながら、効果的な支援を検討し実践できた。 △児童の教育支援計画、指導計画を作成することはできたが、活用し結び付けることは不十分な部分もあった。今年度の振り返りを次年度の支援につなげる。
開かれた 学校づくり	○学校や児童の様子等を積極的に発信し、教育活動の向上と信頼される学校づくりにつなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観や行事への参加、家庭訪問や電話連絡等、保護者との連携を密にする。 ・学校・学級だよりやホームページを活用し、学校や児童の様子等、積極的に情報発信し理解を得る。そのために、取組の目的や方法を分かりやすく伝えられるように工夫する。 ・年度初めに本年度の経営方針等を示し、年度末にそれについての評価を得るというサイクルを進める。学校評価や保護者アンケートを活用し改善に活かす。 ・地域人材や学校支援ボランティアを活用して、地域の方とのつながりを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業参観は毎回多くの参観者があり、行事への参観・協力もPTAと協力して行うことができた。 ○行事や取組の様子を学校便りや学級だより、ホームページにより発信することができた。 △教育活動に対する保護者アンケートの結果を分析し、学校改善につなげていく。 △地域や外部人材の活用について、ねらいを明らかにし計画的に行う。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学向上に向けた研究活動の活性化。「深い学び」につなげる授業改善を行う。 ・安定した学級経営の実現に向け、生徒指導の三機能を踏まえた指導を継続する。 ・特別活動を中心として児童の豊かな人間関係づくりを関連させる。 ・個に応じた児童への支援の在り方を進めていくため、実態の把握と指導の方向性を明確にする。 		